

2018年度 慶應義塾大学体育研究所 活動報告書

特集：体育研究所三田設置科目(体育科目)について

福士徳文君

公益社団法人全国大学体育連合「大学体育研修精励賞」受賞

稲見崇孝君

The Fifth Fascia Research Congress

-For Clinical Relevance in Fascia Research Award 2nd Prize 受賞



目 次

「巻 頭 言」 所長 石手 靖	1
I. 特集 体育研究所三田設置科目（体育科目）について	5
福士徳文君 公益社団法人全国大学体育連合「大学体育研修精励賞」受賞	7
稲見崇孝君 The Fifth Fascia Research Congress -For Clinical Relevance in Fascia Research Award 2 nd Prize 受賞	8
II. 研究活動記録（研究委員会）	
1. 個人研究業績・教育業績・研究助成	11
2. 所内定例研究会発表会要旨	24
3. 大学体育指導者全国研修会報告	30
4. 浅野・所内・学事・小泉基金報告書	32
III. 教育活動記録	
III-1. 授業の実施（教育委員会）	
1. 2018年度体育科目の履修者統計	42
2. 授業評価の実施	49
3. 通信教育対象科目	57
4. 塾内における授業担当	57
III-2. スポーツイベントの開催（スポーツ振興委員会）	
1. 塾長杯・塾内競技大会	59
2. 公開講座	60
3. 所内施設の開放	60
III-3. 他機関との連携	
1. 公開講座	61
2. 一貫校連携	61
3. 体育会支援	61
IV. 業務活動記録（千葉 徹 主事）	65
Appendix 『KEIO 2020 project 2018年度活動報告』	69

巻 頭 言

慶應義塾大学体育研究所

所 長 石 手 靖

この度、2018年度慶應義塾大学体育研究所活動報告書を発行することができました。まずは、この一年間の体育研究所における研究、教育、スポーツ振興の各活動に際し、ご尽力賜りました所員はじめ関係の皆様方に対し、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。2019年5月1日、元号が平成から令和へと改まりました。本巻頭言の原稿は新元号の下、執筆していますが一つの大きな区切りと捉え、気持ちを新たに体育研究所の活動をお伝えできればと存じます。

さて、2018年度は、体育研究所にとって三つの大きな事業を控えての“準備の年”となりました。一つは、日吉記念館の建て替え工事に伴う準備です。日吉記念館内の体育施設の細部の調整と運用方法等の様々な検討です。昨年度に引き続き今年度も建て替え工事の影響は、体育実技の種目数や開講数、あるいはスポーツ大会等のイベント実施に及びました。慶應義塾高等学校のご協力を得て蝮谷体育館を一部借用したり、屋外の施設をできるだけ使用することで対応しましたが、雨天が毎週続く曜日時限もあり、“身体を動かす”という目的に沿えず、授業内容に苦慮した教員の方々も多かったことと思います。完成後の日吉記念館において、塾生の体育活動が円滑かつ有効に実施できるように準備を進めています。二つ目は、2020東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う英国オリンピック・パラリンピック委員会(BOA・BPA)の事前キャンプ地としての準備です。2020東京オリンピック・パラリンピックの開催まで約1年となり、大会券の販売予約申込も始まり世間の関心も高まっているように思えます。BOA・BPAの事前キャンプを迎える学生ボランティアの育成(KEIO 2020 project)、日吉キャンパスの体育施設の使用に関するシミュレーション、BOA・BPAの事前キャンプを塾生の教育にどう生かすかの検討です。三つ目は、日本体育学会第70回大会の日吉キャンパスでの開催に向けた準備です。体育・スポーツ科学に関する学術団体では国内最大規模の日本体育学会による第70回大会を2019年9月に日吉キャンパス(主に独立館)にて開催することとなり、その運営を体育研究所が担うこととなりました。より良い大会にすべく所員一丸となりその準備に取り組んでいます。体育・スポーツに深くかかわる我々にとって、非常に興味深く、責任を感じている昨今です。

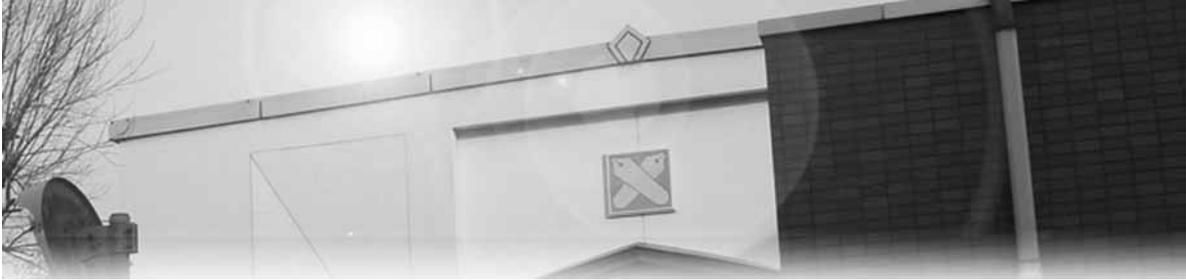
上記以外の活動をも後述しますので、皆様には是非本報告書をご一読頂き、体育・スポーツに限った角度のみならず、他分野からのご意見を頂戴できれば幸いです。

I. 特集：

- 体育研究所三田設置科目（体育科目）について
- 福士徳文君 公益社団法人全国大学体育連合「大学体育研修精励賞」受賞
- 稲見崇孝君 The Fifth Fascia Research Congress
-For Clinical Relevance in Fascia Research Award 2nd Prize 受賞

体育研究所三田設置科目（体育科目）について

吉田泰将



体育研究所では2019年度三田地区と芝共立地区において、三田・芝共立キャンパス設置科目を開設している。

種目としては、弓術・テニス（初級・中級）・ボディメイクエクササイズ・剣道・ボディコンディショニング・合気道・バレーボールと多彩である。しかしながら中等部グラウンド内の三田綱町武道館とテニスコートと芝共立キャンパスの体育館と施設が乏しいのも現状である。

ここで、三田キャンパスにおける体育実技の開設に至った経緯について振り返ってみたい。

大学設置基準の大綱化に伴う慶應義塾大学教育カリキュラムの改革が行われ、平成5年度から保健体育科目が選択科目として取り扱われることとなった。（理工学部は1996年度から実施）学部によって卒業単位として認定される単位数も異なることもあり、多様化する学生からのニーズにいかに対応するか検討し、文学部が2年次から、経済学部・法学部・商学部が3年次から通学する三田キャンパスにおける体育実技の開講が必要不可欠との結論に至った。準備を進め、1995年度から三田綱町の中等部グラウンド内の施設を利用してテニスをテニスコート、柔道と合気道を綱町武道館柔道場、剣道とダンスを剣道場で開講した。総定員370名のところ履修者数合計が107名と約29%の充足率にとどまった。

三田開講科目の当初の担当者は、テニス（堀場雅彦・非常勤講師・庭球部OB）、柔道（安藤勝英・助教授）、合気道（稲田周平・非常勤講師・合気道部OB）、ダンス（佐々木玲子・専任講師）、剣道（清水誠治・非常勤講師・剣道部OB、吉田泰将・専任講師）であった。

1996年度からは三田設置科目の拡充を望む学生アンケートの結果を受けて、コマ数・総定員を約2倍に増やして対応した。初年度の教員陣容に加えて、テニス（近藤明彦・教授、田中伸明・助手）、ダンス（篠原しげ子・助教授）、新種目としてテニスコートでバレーボール（石手靖・専任講師）、弓道場で弓術（村上博之・非常勤講師・弓術部OB）と充実を図った。

その後、表1に示した通り、開講コマ数は28～36とその年度の担当教員の配置により変化し、履修者数・充足率を見ると2000年度・2001年度の102%・96%をピークとして減少傾向となるが、2010年度・2011年度の落ち込みは見られたが、2014年度まで70～60%台を維持してきた。しかしながら2015年度以降減少傾向に拍車がかかり、2015年度59%、2016年度51.5%、2017年度47%となり、2018年度35%と40%を割り込んでいる現状である。現在の学部3年生は秋学期には就職活動の準備期間に当たり、春学期は4年生の就職活動の面接時期と重なってきたこともひとつの要因と考えられる。

表1 三田体育実技・開講コマ数・履修者数・充足率の変遷

三田	年度	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
	開講コマ数	16	30	34	34	30	34	34	36	36	34	36	36
	履修者数	107	461	588	530	532	692	703	596	373	487	583	580
	充足率(%)	28.9	73.5	79	78	79	102	96	75	51	69	78	77
	年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
	開講コマ数	34	32	28	30	36	36	36	36	36	36	36	30
	履修者数	488	470	375	339	417	449	504	498	407	404	390	227
	充足率(%)	71	72	66	57	52.5	66.5	75	76.5	59	51.5	47	35

※但し、2011年度から芝共立キャンパスのデータとの合計の値を示している。

2021年度から経団連の取り決めに離れ、政府や大学側により、就職活動に関するガイドラインが策定されてくると三田キャンパスの体育実技履修者が再び増加に転ずることも期待できるであろう。

これまで三田においても、運動する機会を求めて教員とともに楽しい時間を過ごしてきた塾生諸君の姿を思い出しながら、これからも多くの履修者を呼び込めるよう我々も努力を惜しまず取り組む所存である。



剣道



弓術



テニス



バレーボール

福士徳文君 公益社団法人全国大学体育連合 「大学体育研修精励賞」受賞

福士君は、2018年度に公益社団法人全国大学体育連合より、「大学体育研修精励賞」を受賞した。同賞は、大学体育連合の主催する研修会等に積極的に参加している教員が表彰されるものである。研修は、様々な競技種目に関する教育法を全国の教員とともに学ぶもので、同賞の受賞は大学体育における高い教育水準が担保されていることを示しており、今後の体育分野における貢献を期待されたものである。体育研究所では、大学体育連合の研修会に積極的に所員を派遣してきたことか

ら、研究所としても大学体育の質保証に関する一つの成果となった。

関連情報

- 公益社団法人全国大学体育連合サイト（表彰者ページ）
http://daitairen.or.jp/?page_id=932
- 福士徳文“大学体育研修精励賞を受賞して”，『大学体育』112号，（公社）全国大学体育連合：29，2018



受賞の記念品

稲見崇孝君 The Fifth Fascia Research Congress -For Clinical Relevance in Fascia Research Award 2nd Prize 受賞

稲見君は2018年11月14日～15日にドイツベルリンで開催された The Fifth Fascia Research Congress において、For Clinical Relevance in Fascia Research Award 2nd Prize を受賞した。本研究は、早稲田大学スポーツ科学学術院広瀬統一教授とドイツ Ulm 大学 Fascia Research Group, Experimental Anesthesiology University Hospital の Robert Schleip 教授と実施した国際共同研究“Study on mechanism of the increase of range of motion by foam rolling(Yoshimura, A., Inami, T. et al.)”によるもので、受賞理由は近年注目が集まる筋膜の多様性に関して、圧刺激による関節可動域変化の要因を深層筋膜と筋線維のスライディングの観点から考察したことによる (<https://fasciacongress.org/2018-congress/2018-awards/>)。J. Bodyw. Mov. Ther. からも受賞内容を確認できる (J. Bodyw.

Mov. Ther. 22: 842, 2018.)。本知見はすでに当該領域の国際誌に投稿・掲載されている (Yoshimura, A., Inami, T., Schleip, R., et al., Effects of self-myofascial release using foam roller on range of motion and morphological changes in muscle: A crossover study. J. Strength Cond. Res., DOI: 10.1519/JSC.0000000000003196, 2019)。

- 義塾サイト (研究活動による2018受賞ページ)

<https://www.keio.ac.jp/ja/research/researchers/award.html>

- 義塾サイト (研究トピックスページよりリンク掲載：最新の情報に更新 [F5ボタン押下])

<https://www.keio.ac.jp/ja/research/>



賞状



授賞式でスピーチする Robert Schleip 教授 (Ulm 大学) と発表者の吉村茜さん (左から 2 番目)

Ⅱ. 研究活動記録

(研究委員会)

1. 個人研究業績・教育業績・研究助成

石手 靖 【教授】

著書・論文・執筆・報告書

(報告書)

- ・石手靖, 鳥海崇, 坂井利彰, 加藤幸司, 須田芳正, 吉田泰将, 山内賢, “学生スポーツの行動と大学におけるスポーツ「研究を通じた塾体育会の支援策 —統計手法を用いた競技力推定—”, 慶應義塾大学体育研究所2018年度基盤研究報告書, 慶應義塾大学体育研究所: 16-21, 2019.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・石手靖, “慶應義塾とオリンピック”, 7大学連携スポーツ・リベラルアーツ講座, 上智大学四谷キャンパス, 2018.11.17.

(役職)

- ・日本バレーボール学会理事長
- ・日本レーザー・スポーツ医科学学会理事
- ・横浜ビーチバレーボール連盟理事

研究助成等

- ・“KEIO スポーツレガシー —東京2020オリンピック英国サポートを通じた“生きる力”を備えた人間育成プロジェクト【KEIO 2020 project】—”, 創立150年記念未来先導基金2018年度公募プログラム, 215.7万円.
- ・“スポーツを通じた障がい理解教育プログラムの開発・改善と KEIO フットサルアドベンチャー 2018の開催”, 2018年度教育・研究調整予算(日吉)プロジェクト事業, 45.2万円.
- ・“塾生の健康関連体力の向上啓発プロジェクト”, 2018年度教育・研究調整予算(日吉), プロジェクト事業, 464.7万円.
- ・“スポーツボランティア参加学生における社会的スキル・自己効力感・ライフスキルの特徴 —横断的調査・第一報—”, 浅野均一記念研究奨励金, 30万円.

植田 史生 【教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(役職)

- ・日本レーザー・スポーツ医科学学会理事
- ・ハーヴァード大学剣道部ヘッドコーチ, ライフタイムディレクター

当年中の研究教育活動の概要

スポーツ科学分野の LLLT・LLLT における文献研究を行った。

近藤 明彦 【教授】

佐々木玲子 【教授】

著書・論文・執筆・報告書

(著書)

- ・佐々木玲子, “幼少年のための運動遊び・体育指導, 第7章幼少年期の動作の発達”, 一般社団法人幼少年体育指導士会編, 杏林書院: pp.61-70, 2018年

(報告書)

- ・佐々木玲子, “ご当地体操に関する自治体の取り組み”, 全国ご当地体操実態調査, 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団: pp.35-57, 2018年
- ・佐々木玲子, “「スポーツ・イン・ライフ」に向けた女性のスポーツ環境整備”, 生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2019報告書 人・スポーツ・未来, スポーツ庁: pp.18-23, 2019年
- ・山内 賢, 永田直也, 佐々木玲子, 加藤大仁, 近藤明彦, “大学体育において教員は履修者の運動・スポーツに対する内発的動機づけに貢献するか?—体育大学における動機づけ雰囲気の検討—”, 2018年度慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書, 慶應義塾大学体育研究所, p12-15, 2019年

学会発表等

- ・Sasaki Reiko, Ishizawa Junko, “Development of movement control in various patterns of hopping in preschool children”, 23rd Annual Congress of European College of Sport Science, Dublin (Ireland), 2018年7月
- ・Ishizawa Junko, Sasaki Reiko, “Time spent in physical activity by preschool children –Comparison across on year–”, 23rd Annual Congress of European College of Sport Science, Dublin (Ireland), 2018年7月
- ・佐々木玲子, “ホップ系動作における幼児の動作調整能の発達”, 第69回日本体育学会, 徳島大学・徳島市, 2018年8月
- ・石沢順子, 佐々木玲子, “幼児の身体活動量と家族の運動習慣・意識との関連”, 第73回日本体力医学会, 福井市, 2018年9月
- ・石沢順子, 佐々木玲子, “年少の幼児における日常身体活動量の経年変化—2歳～3歳児クラスの追跡測定から—”, 第15回子ども学会議 日本子ども学会学術集会, 同志社女子大学・京都市, 2018年11月

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・佐々木玲子, “ジュニア期の指導の重要性～子どもの発育発達の観点から”, 第1回ジュニアスポーツフォーラム, 分科会C これからのスポーツ指導者に求められること, 千代田区, 2018年6月
- ・佐々木玲子, “幼少期の運動発達の特徴と指導”, 早稲田大学ヒューマンパフォーマンス研究所第2回シンポジウム・身体能力開発学への挑戦「生涯を通じた健康増進に向けて」, 早稲田大学, 2018年12月
- ・佐々木玲子, “子どもの発育発達と女性の運動・スポーツ”, 生涯スポーツ・体力づくり全国会議; 第1分科会「スポーツ・イン・ライフ」に向けた女性のスポーツ環境整備, 徳島市, 2019年2月

(講師)

- ・佐々木玲子, “幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム～理論編～”, 幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会, 高知市, 2018年7月, 千葉市, 2018年9月, 前橋市, 2018年11月.
- ・佐々木玲子, “幼児期のカラダと動きの特徴～幼児期のからだづくり運動について考える”, カラダづくり運動プレイリーダー養成講座, 横浜市, 2018年8月
- ・佐々木玲子, “動きの発達” “体力”, 日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員養成講習会, 世田谷区, 2018年8月, 名古屋市, 2018年10月
- ・佐々木玲子, “幼少年期の動作の発達”, 幼少年体育指導士認定講座, 港区, 2018年8月, 岐阜市, 2018年10月,
- ・佐々木玲子, “動きの発達とスキルの獲得”, すぎなみスポーツアカデミー指導員養成講習会, 杉並区, 2018年10月
- ・佐々木玲子, “ダンススポーツのバイオメカニクス”, “子どもの発育発達とダンススポーツ”, 日本スポーツ協会公認指導者養成 専門科目(ダンススポーツ)講習会, 江東区, 2019年3月

(役職)

- ・日本学会議連携会員
- ・日本体育学会理事
- ・東京体育学会常任理事

- ・日本子ども学会理事
- ・比較舞踊学会副会長
- ・横浜市スポーツ推進審議会委員
- ・日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会委員
- ・財団法人健康・体力づくり事業財団 全国ご当地体操実態調査委員会委員
- ・ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト支援委員会委員

研究助成等

- ・“幼児におけるリズムカルな供応動作の発達～マルチタスク動作に着目して”，科学研究費助成金，(16K01884)，80万円。

村山 光義 【教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・Murayama M, Inami T, Shima N, Nosaka K, Uchiyama T, Yoneda T, “Optimum displacement of muscle in relation to thickness for biceps brachii hardness measurement using a push-in meter” Biomedical Physics & Engineering Express, 5 (1) , 017001, 2018.10

(報告書)

- ・野口和行, 村山光義, 松村 憲, 板垣悦子, 東海林祐子 “体育実技を通じたライフスキルの獲得に関する基礎的検討”, 慶應義塾大学体育研究基盤研究報告書, 4-11, 2019.
- ・村山光義, 植田史生, 奥山静代, 永田直也, 福士徳文, 稲見崇孝, 佐藤正伸 “大学体育の今日的課題の検証と本塾の課題へのアプローチを探る” 2018年度慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書, 慶應義塾大学出版会: 22-77, 2019.

学会発表等

- ・西山大亮, 村山光義, 内山孝憲, “特定の筋の硬度を計測できる筋硬度計測系の構築” 第57回日本生体医工学会, 2018.6.20
- ・村山光義, “LLLT・LEDTと運動パフォーマンスの関係 —研究の現状と可能性—” 第30回日本レーザー治療学会, 日本レーザー治療学会誌 Vol.17: 31, 2018.6.24
- ・村山光義, 競技力向上への光線療法の可能性, 第30回日本レーザー治療学会, 日本レーザー治療学会誌 Vol.17: 66, 2018.6.24
- ・Murayama M, Inami T, Miyagawa H, Nosaka K, Yoneda T, “Resting muscle hardness assessed by A pressure meter in relation to muscle stiffness assessed by ultrasound shear wave elastography” 23th Annual congress of the European College of Sport Science, (Dublin, Ireland), 2018.7.5
- ・村山光義, “慶應義塾大学のスポーツサークルの現状” 第7回大学体育スポーツ研究フォーラム, 大学体育スポーツ学研究16: 68, 2019.2.21

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・村山光義, “大学スポーツの現状”, 北陸大学: 大学スポーツ講演会, 北陸大学, 2018.10.20

(シンポジウム)

- ・村山光義, 慶應義塾大学体育研究所・(公社)全国大学体育連合関東支部共催シンポジウム『「スチューデント・ファースト」による大学体育・スポーツ振興を目指して』コーディネーター (慶應義塾大学体育研究所基盤研究3班の活動として), (慶應義塾大学・横浜), 2018.12.1

(講師)

- ・村山光義, “フライングディスク”, 全国大学体育連合指導者養成研修会, 日本大学(千葉), 2019.3.1-2

(役職)

- ・日本体育学会第70回大会組織委員会事務局長

研究助成等

- ・“塾生の健康関連体力の向上啓発プロジェクト”，2018年度 教育・研究調整予算（日吉），464.7万円．研究代表者：石手靖

当年中の研究教育活動の概要

当年は、日本体育学会第70回大会組織委員会の事務局長として翌年の開催に向けた準備活動を推進した。また、所内の基盤研究においては担当班でシンポジウムをコーディネートした。さらに、教育・研究調整予算（日吉）を取得し“塾生の健康関連体力の向上啓発プロジェクト”としてセミナーを主導した。

加藤 大仁 【教授】

著書・論文・執筆・報告書

（報告書）

- ・班長：山内賢，班員：永田直也，佐々木玲子，加藤大仁，近藤明彦 “大学体育において教員は履修者の運動・スポーツに対する内発的な動機づけに貢献するか？—大学体育における動機づけ雰囲気の検討—” 2018年度應義塾大学体育研究所基盤研究報告書：12-15，2019年

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

日本運動・スポーツ科学学会理事

村松 憲 【教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（フィールドワーク）

- ・公益財団法人日本オリンピック委員会 強化スタッフ（情報・戦略スタッフ）
- ・公益財団法人日本テニス協会 強化情報・科学委員会委員
- ・公益財団法人日本テニス協会 コーチング委員会常任委員
- ・日本テニス学会運営委員（審査担当兼編集委員会）
- ・日本スポーツパフォーマンス学会編集委員

（講師）

- ・村松憲，“機能解剖とバイオメカニクスⅠ，Ⅱ”，第121回健康運動実践指導者養成講習会，立教大学池袋キャンパス，2018年09月．

山内 賢 【教授】

著書・論文・執筆・報告書

（執筆）

- ・山内 賢，“足の裏は、安定の小宇宙！”，Walking PLUS vol.15，一般社団法人日本ポールウォーキング協会，P4，2018．
- ・須藤元喜，植田智也，押野一志，佐藤宏隆，仁木佳文，山内 賢，“花王（株）の歩行研究とメディカルウォーキングポール”，Walking PLUS vol.15，一般社団法人日本ポールウォーキング協会，P5-9，2018．
- ・山内 賢，“ポールウォーキングの安定性についてその2 安藤邦彦ドクターが考案したポールウォーキングの支援理論～安 Doさん理論～”，Walking PLUS vol.15，一般社団法人日本ポールウォーキング協会，P6-12，2018．
- ・山内 賢，“理想とするポールウォーキングのコーチ像を語る～コーチングと安全管理①”，Walking PLUS vol.16，一般社団法人日本ポールウォーキング協会，P12-15，2018．
- ・山内 賢，“ポールウォーキングによる運動効果検証試験の報告”，Walking PLUS vol.16，一般社団法人日本ポールウォーキング協会，P15-20，2018．

(報告書)

- ・班長：山内 賢，班員：永田直也，佐々木玲子，加藤大仁，近藤明彦，“大学体育において教員は履修者の運動・スポーツに対する内発的動機づけに貢献するか？—大学体育における動機づけ雰囲気検討—”，2018年度慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書，体育研究所，p12-15，2019.
- ・班長：石手 靖，班員：鳥海 崇，坂井利彰，加藤幸司，須田芳正，吉田泰将，山内 賢，“研究を通じた塾体育会の支援策～統計手法を用いた競技力推定～”2018年度慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書，体育研究所，p16-22，2019.

学会発表等

- ・山内 賢，市河 勉，荻田 亮，柳川郁生，吉田弘法，“ポールウォーキングの歩行技術を観察学習する際に全天球カメラを用いる有効性—全天球とハンディカムカメラで撮影した映像の比較による観察と深部感覚のギャップを探る教材の斬新さ—”，日本体育学会第69回大会，徳島大学，2018年8月24・25・26日.
- ・山内 賢，吉田弘法，荻田 亮，市河 勉，柳川郁生，長谷川 弘道，安藤邦彦，“ポールウォーキングが歩容を改善するバイオメカニズム”，第73回日本体力医学会大会，アオッサ・ハルピン(福井)，2018年9月7・8・9日.
- ・山内 賢，荻田 亮，市河 勉，柳川郁生，安藤邦彦，松井 浩，長谷川 弘道，吉田弘法，“高齢者が行うポールウォーキングの歩容をアクティブラーニングする際に天球カメラを用いる有効性について”，第22回日本ウォーキング学会大会，海峡メッセ下関国際会議場，2018年10月13・14日.
- ・山内 賢，市河 勉，荻田 亮，安藤邦彦，“高齢者が行うポールウォーキング学習の動作意識と感性解明に全天球映像を用いる優位性”，第77回日本公衆衛生学会総会，ビックパレットふくしま，2018年10月24・25・26日.
- ・Ken Yamauchi, Tomoya Ueda, Motoki Sudo, Akira Ogita, Ikuo Yanagawa, Hironori Yoshida, Tsutomu Ichikawa, and Kunihiro Ando, “Biomechanism of pole walking to improve gait in older adults”, The Australian Association of Gerontology 51th National Conference, Melbourne, Australia, 21-23 November, 2018.
- ・Akira Ogita, Wakae Murata, Ken Yamauchi, Ikuo Yanagawa, Tsutomu Ichikawa, Ken-ichi Fujita, Toshiro Tanaka, “Expanding Human Lifespan by Pear Extract Mediated Sirtuin-related Gene Expression”, The Australian Association of Gerontology 51th National Conference, Melbourne, Australia, 21-23 November, 2018.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・山内 賢，“㊦楽しみが増え ㊧活動的になり ㊨散歩よりも ㊩筋力がつくポールウォーキングをご存知ですか？”，慶應義塾大学通信教育部地方試験後講演(高崎)，慶應義塾大学通信教育部，2018年4月8日.
- ・山内 賢，“歩行で“歩幸”～歩いて貯“筋”しよう！～”，伊勢原中央ロータリークラブ，2018年5月21日.
- ・山内 賢，“㊪気持ちよく ㊫良い姿勢になる ㊬運動で ㊭友達も作れる
ポールウォーキングはいかがでしょうか？”，慶應義塾大学通信教育部地方試験後講演(京都)，慶應義塾大学通信教育部，2018年7月8日.
- ・山内 賢，“諦めない心の三大栄養素～良き 教え×ささえ×まねび”，彦根東高校 Leader Ship Project 講演会，滋賀県立彦根東高校，2018年10月6日.
- ・山内 賢，“超回復について語りませんか？～長野でちょう回復を考える～”，篠ノ井ランニングクラブ講演会，篠ノ井ランニングクラブ(長野)，2018年12月9日.
- ・山内 賢，“㊦楽しみが増え ㊧活動的になり ㊨散歩よりも ㊩筋力がつくポールウォーキング～㊮高い重心と ㊯軽やかな腕振り動作で ㊰さっさと歩いて ㊱気持ちがいいポールウォーキングはいかがでしょうか？～”，慶應義塾大学通信教育部講師派遣(高崎)，群馬慶友会，2019年12月16日.
- ・山内 賢，“ポールウォーキング&博多街歩き～「㊲はつらつと ㊳かぜを感じながら ㊴たのしく歩けるように ㊵デザインされたフィットネス！ポールウォーキングを取り入れてみませんか？”，慶應義塾大学通信教育部講師派遣(福岡)，福岡慶友会，2019年3月9・10日.

(講師)

- ・山内 賢, “ポールウォーキングの技術と技能検定および安全性”, 2018日本ポールウォーキング協会認定ベーシックコーチ資格取得セミナー, 足利大学, 2018年4月15日.
- ・山内 賢, “ポールウォーキングで健康(健幸)歩行(歩幸)を取り戻そう”, 日本ウェルネススポーツ大学公開講座, 日本ウェルネススポーツ大学, 2018年7月1日.
- ・山内 賢, “ポールウォーキングの技術と技能検定および安全性”, 2018日本ポールウォーキング協会認定資格更新講習会, 名古屋雲竜フレックスビル, 2018年9月16日.
- ・山内 賢, “2018 70代元気研究プロジェクトII PW介入「バランスよく歩こう!」～「体力測定」「ポールウォーキングの話」「歩行姿勢は人間らしさ!ゴリラじゃ やだよね…歩幅が大切」「歩行の歩幅が増えると歩幸をまねく!肩甲骨が動いていますか?」「手足の上手な動きは全身の動きのコーディネーションに繋がる!コーディネーションはこ～でないと歩行速度の調節ができないよ」「運動強度の話(インターバル速歩)」「歩数と運動量はいっきにやる?足し算でやる?」～”, 花王(株), まちの健康研究所「あ・し・た」, 2018年9月3・10・17・24・日, 10月1・8・15・22日, 11月5・12・19・26日, 12月3・10・17日.
- ・山内 賢, “創ろう ポールウォーキングのまち!参加しよう 国民体育大会デモンストレーション種目(基礎編)”, 日本ウェルネススポーツ大学公開講座, 日本ウェルネススポーツ大学, 2018年10月25日.
- ・山内 賢, “柏の葉ウェルネスウォーキング「エコな歩行の入り口にポールウォーキングはいかがですか?」”, 柏の葉アーバンデザインセンター, 2018年11月11日.
- ・山内 賢, “創ろう ポールウォーキングのまち!参加しよう 国民体育大会デモンストレーション種目(応用編)”, 日本ウェルネススポーツ大学公開講座, 日本ウェルネススポーツ大学, 2018年11月15日.

研究助成等

- ・体育・スポーツにICT教育を活用する試み4 その2 ～遅延映像を用いた観察学習方法のシステムデザインと効果の可能性を探る～, 体育研究所内研究費, 145,433円

当年中の研究教育活動の概要

「身体活動能力を量だけで評価する時代から質の評価も加える時代への変換」これは、これまで、身体活動能力を評価する場合に、動作の「速さ」、「反復回数」、「距離」等の量的な成果主義評価に従うことが主流であったが、能力を量だけでなく、「巧さ」、「姿勢」、「バランス」という質的な評価も必要であるという発想である。運動能力に求められる量的な優位性に、質的な評価の有効性という観点を加えるという、技能評価の新たな観点を提起したいという考えである。研究のロジックは、歩行能力改善をターゲットにした「歩容の評価が量的に同じ評価の者を、質的に評価することにより、未来の動作の成長や非効率性を予測することができるかもしれない。」という仮説をたて、歩行時の動作を撮影し、「動作」を重視した分析を行っていく。映像を見て、感じて、考えるために、歩容測定の見測結果と測定時の動作を関連付けるモルフォロジー(運動学)的な考察をしていく。以下に簡易手順を示す。

歩行の場面をカメラで撮影することにより、歩容測定値の優劣と動作姿勢の関係を導き出して、指導者と学習者が歩容改善の対策におけるフィードバック/フィードフォワードできるアクティブラーニングの環境を意匠する。期待される成果は、歩行能力を評価することにおいて、一般的に「精協調性や運動の自動化」が求められるにもかかわらず、数値のみで評価評価する事例が多い。なぜそのような記録が出るかの質的分析をすることは、効率的な運動処方提案の礎となるはずである。動作の質的な観察は、「動き」には理屈が存在するので、計測結果に動作の視覚的な情報を加えることは、量と質の評価を可能にする斬新な体力測定の意匠となる。

吉田 泰将 【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(著書)

平成30年度 中学校部活動における剣道指導の手引き, 一般財団法人全日本剣道連盟, 普及委員会学校教育部会, 2019.3

(報告書)

- ・石手靖, 鳥海崇, 坂井利彰, 加藤幸司, 須田芳正, 吉田泰将, 山内賢, “研究を通じた塾体育会の支援策—統計手法を用いた競技力推定”, 2018年度慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書, 慶應義塾大学体育研究所: 16-21, 2019.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(役職)

- ・日本武道学会 評議員 通年
- ・一般財団法人全日本剣道連盟 評議員 通年
- ・一般財団法人全日本剣道連盟 普及委員会学校教育部会・委員 通年
- ・一般財団法人全日本剣道連盟 社会体育指導員養成講習会 講師 通年
- ・文部科学省委託事業・武道等指導充実・資質向上支援強化委員会 委員・通年
- ・一般財団法人全日本学校剣道連盟 常任理事・事務局長 通年
- ・創立60周年記念 第60回全国教職員剣道大会(大阪) 総務委員長 (2018.8.3)
- ・全日本学生剣道連盟・関東学生剣道連盟 審判員 通年
- ・全日本学連剣友会 会長推薦理事 通年
- ・関東学連剣友連合会 副会長 通年
- ・東京学連剣友連合会 理事 通年
- ・慶應義塾体育会剣道部(三田剣友会) 副師範 通年
- ・慶應義塾大学医学部体育会剣道部 師範代行 通年

(資格)

- ・一般財団法人全日本剣道連盟 剣道教士八段
- ・一般財団法人全日本剣道連盟 審判講師養成指導講師認定

(大会出場)

- ・第18回 寛仁親王杯剣道八段選抜剣道大会 (2018.9.1) 9年連続出場

当年中の研究教育活動の概要

文部科学省委託事業・武道等指導支援強化委員会の委員として、中学校授業協力者の養成とデータベースの構築や授業協力者を活用した授業の視察を行い、さらにアンケート調査やインタビューにより現場の実態を明らかにしていく活動を行っている。

板垣 悦子 【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(報告書)

- ・野口和行, 村山光義, 松村 憲, 板垣悦子, 東海林祐子 “体育実技を通じたライフスキルの獲得に関する基礎的検討”, 慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書, 4-11, 2018.

学会発表等

- ・板垣悦子, 木林弥生, 小林典子, 佐藤典子. “大学主催の健康教室参加者の背景と特徴—慶應義塾大学薬学部の事例—”, 日本体育学会第69回大会, 徳島大学, 2018年8月.
- ・Etsuko Itagaki, Yayoi Kibayashi, Noriko Kobayashi, Noriko Sato, Katsunori Yamaura, “Background of Participants in The Health promotion class by University”, 51st Australian Association of Gerontology (AAG) Conference, Australia, November, 2018.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・板垣悦子, “慶應義塾大学薬学部健康づくり教室”, 芝キャンパス, 2018年4月~2019年1月.

加藤 幸司 【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(研究資料)

- ・加藤幸司, “バドミントンの試合中の移動についての事例研究：大学生女子選手のシングルス・ゲームについて”, 慶應義塾大学体育研究所紀要, 第58巻第1号；9-18, 2019.

(報告書)

- ・石手靖, 鳥海崇, 坂井利彰, 加藤幸司, 須田芳正, 吉田泰将, 山内賢, “研究を通じた塾体育会の支援策—統計手法を用いた競技力推定—”, 2018年度慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書, 慶應義塾大学体育研究所：16-21, 2019.

学会発表等

- ・加藤幸司, “バドミントン試合中の移動についての事例研究”, 日本バドミントン学会第2回学会大会, 首都大学東京, 2019年3月

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・平成30年度 公益財団法人日本スポーツ協会公認指導員養成講習会(専門科目)講師(バドミントン), 神奈川, 2018年12月
- ・平成30年度 公益財団法人日本スポーツ協会公認コーチ専門科目(後期)講習会講師(バドミントン), 埼玉, 2019年1月

(役職)

- ・日本バドミントン学会監事

当年中の研究教育活動の概要

東京オリンピック出場のためのバドミントン選考レースが始まる前年、各国選手の動向に注目が集まっているが、トレーニング論の観点から日本国家代表選手の戦略的側面について調査を続けている。

須田 芳正 【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・須田芳正, 岩崎陸, 松山博明, 福士徳文, “サッカーのユース選手育成についての研究～オランダサッカーの育成システムに関する一考察～”, 慶應義塾大学体育研究所紀要, 第58巻第1号：1-8, 2019.

(監訳)

- ・“常勝ドイツのプレッシングメソッド”, 東洋館出版, : 2019.

(報告書)

- ・石手靖, 鳥海崇, 坂井利彰, 加藤幸司, 須田芳正, 吉田泰将, 山内賢, “学生スポーツの行動と大学におけるスポーツ「研究を通じた塾体育会の支援策—統計手法を用いた競技力推定—」”, 慶應義塾大学体育研究所2018年度基盤研究報告書, 慶應義塾大学体育研究所：16-21, 2019.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・早稲田大学オープン教育センター講師(非常勤), “フットサル”, 通年

(役職)

- ・慶應義塾体育会副理事
- ・慶應義塾体育会ハンドボール部長代行

野口 和行【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(報告書)

- ・野口和行, 村山光義, 村松 憲, 板垣悦子, 東海林祐子 “体育実技を通じたライフスキルの獲得に関する基礎的検討”, 慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書, 4-11, 2019.

学会発表等

- ・水流寛二, 野口和行, 辻勢津子, 浅野麻里子, 藤林行夫, 畠中稔生 “特別なニーズを必要とする人を取り巻くこれまでの環境と現在、そしてこれから” 日本福祉文化学会第29回全国大会, 2018年10月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・ふなばし市民学校スポーツコミュニケーション学科, “地域のコミュニティリーダーに求められるもの”, 船橋市中央公民館, 2018年6月
- ・自然体験活動指導者養成研修会, “自然体験活動の意義” “対象の理解” 国立曽爾青少年自然の家, 2018年9月.
- ・(公財) 日本教育科学研究所アウトドアゲーム指導法講習会, 国立乗鞍青少年交流の家, 2018年10月.
- ・国立妙高青少年自然の家, 豊かな実践活動・体験活動推進フォーラム, “特別支援教育における自然体験活動”, 国立妙高青少年自然の家, 2018年11月.

(役職)

- ・大学スケート研究会理事長
- ・日本野外教育学会理事
- ・日本氷上スポーツ学会理事
- ・(公社) 日本キャンプ協会常務理事
- ・(独) 国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金専門委員
- ・(公財) 日本教育科学研究所自然体験活動推進委員

研究助成等

- ・“特別な支援を必要とする人たちを対象としたキャンプの教育的効果と課題”, 慶應義塾学事振興資金, 30万円

奥山 静代【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(報告書)

- ・村山光義, 植田史生, 奥山静代, 永田直也, 福士徳文, 稲見崇孝, 佐藤正伸 “大学体育の今日的課題の検証と本塾の課題へのアプローチを探る” 2018年度慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書, 慶應義塾大学出版会: 22-77, 2019.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(その他)

- ・健康・スポーツ科学女性研究者ネットワーク (NeWS) 世話人
- ・全米ヨガアライアンス認定講師 RYT200 取得 2018. 9月

研究助成等

- ・2018年度 “大学体育の今日的課題の検証と本塾の課題へのアプローチを探る (基盤研究3班)”, 体育研究所内研究費 (代表: 村山光義) 827,436円

坂井 利彰 【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

(報告書)

- ・石手靖, 鳥海崇, 坂井利彰, 加藤幸司, 須田芳正, 吉田泰将, 山内賢, “学生スポーツの行動と大学におけるスポーツ「研究を通じた塾体育会の支援策 —統計手法を用いた競技力推定—”, 慶應義塾大学体育研究所2018年度基盤研究報告書, 慶應義塾大学体育研究所: 16-21, 2019.

(執筆)

- ・坂井利彰, “大坂なおみ 絶対王者の道を歩み始めた” 東京中日新聞朝刊, 2019年1月

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団・こどもの体力・基礎運動能力向上事業・世田谷区ジュニアアカデミー (テニス) 総合監修

(解説)

- ・日本放送協会『ウインブルドン2018』, 2018年6月
- ・日本放送協会『ATP ツアーファイナル2018』, 2018年11月
- ・日本放送協会『全豪オープン2019』, 2019年1月
- ・日本放送協会『マイアミオープン2019』, 2019年3月

(役職)

- ・慶應義塾体育会副理事
- ・慶應義塾体育会庭球部監督
- ・慶應チャレンジャー国際テニストーナメント (慶應義塾主催) トーナメントディレクター
- ・公益財団法人日本テニス協会 理事
- ・公益財団法人日本テニス協会 普及育成本部副本部長
- ・公益財団法人日本オリンピック委員会 強化スタッフ

鳥海 崇 【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・鳥海 崇, “体育実技「水泳」履修学生の水中安全能力の調査: 泳力テストと質問紙による泳力の自己評価との関係を中心に”, 体育研究所紀要, 58(1): 19-32, 2019.

(報告書)

- ・石手靖, 鳥海 崇, 坂井利彰, 加藤幸司, 須田芳正, 吉田泰将, 山内賢, “研究を通じた塾体育会の支援策—統計手法を用いた競技力推定”, 2018年度慶應義塾大学体育研究所基盤研究報告書, 慶應義塾大学体育研究所: 16-21, 2019.

(執筆)

- ・鳥海 崇, “【序章】安全水泳”, 誰でもどこでも泳げるようになる! 水泳大全, 東洋館出版社: 326, 2018.
- ・鳥海 崇, “スポーツ組織としての生命”, 組織としての生命—生命の教養学15—, 慶應義塾出版会: 240, 2019.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・鳥海 崇, “スポーツ組織としての生命”, 生命の教養学—組織としての生命—, 慶應義塾大学, 2018年5月.
- ・T. Toriumi, “History of Keio University Athletic Association”, Architectural Design Studio A, Keio University, 2018.5.

永田 直也 【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書

(執筆)

- ・永田直也, “オリンピック・パラリンピックに向けて”, 三田評論 第1228号, 慶應義塾大学出版会: p.48, 2018.

学会発表等

- ・永田直也・新井健之・渡部裕美・高橋和将・北徹朗・中島弘毅・竹市勝, “ターゲット物体の運動を予測するスキルの検討”, 日本体育学会第69回大会, 徳島, 2018年8月.
- ・中島弘毅・新井健之・永田直也・竹市勝・渡部裕美・高橋和将・北徹朗, “ターゲット物体の運動予測と運動能力との関係についての検討”, 日本体育学会第69回大会, 徳島, 2018年8月.
- ・北徹朗・新井健之・永田直也・渡部裕美・高橋和将・中島弘毅・竹市勝, “運動物体の捕捉プロセスにおける認知・予測・運動制御特性”, 第73回日本体力医学会大会, 福井, 2018年9月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講師)

- ・“スポーツ心理学”, 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会主催 平成29年度中級スポーツ指導員養成講習会, 東京, 2018年11月.
- ・“スポーツ・インテグリティを考える”, 公益財団法人日本バスケットボール協会主催 第4回JBA コーチカンファレンス, 東京, 2018年12月.
- ・“スポーツ心理学”, 埼玉県障害者交流センター主催 平成29年度中級スポーツ指導員養成講習会, 埼玉, 2019年1月.

(フィールドワーク)

- ・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会 障がい者競技スポーツ医・科学・情報サポート推進事業サポートスタッフ(心理領域).
- ・公益財団法人日本バスケットボール協会 技術委員会指導者養成部会ワーキンググループ

当年中の研究教育活動の概要

当年の研究活動は, 共同研究者とともに物体運動の予測に関する知見を積み重ねた。仮想現実から実環境における測定に進んだが, 測定方法も含めてまだ検討すべきことが多い。ひとつひとつ解明を進めていきたい。

フィールド活動では, 東京オリンピック・パラリンピックに関わる内容が多くなってきたい。現在は塾外に向けた活動が多いが, これからは塾内での教育・スポーツ振興活動にも貢献できるように幅を広げていきたい。

福士 徳文 【助教(有期)】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・須田芳正, 岩崎陸, 松山博明, 福士徳文, “サッカーのユース育成についての研究～オランダサッカーの育成システムに関する一考察～”, 慶應義塾大学体育研究所紀要: 第58巻第1号, 2019

(執筆)

- ・福士徳文 “サッカーの体力と、子どもの発達に必要なこと”, オノタケ式ボールゲーム指導ガイド, ベースボール・マガジン社: 57, 2018
- ・福士徳文 “実技指導研修会報告「フットサル」”, 『大学体育』111号, (公社)全国大学体育連合: 63-64, 2018
- ・福士徳文 “大学体育研修精励賞を受賞して”, 『大学体育』112号, (公社)全国大学体育連合: 29, 2018

学会発表等

- ・小畑昭仁, 大嶽真人, 長谷川望, 八百則和, 福士徳文, 末永尚, 島寄佑, 吉村雅文, “サッカー選手の技能 (skill) に対する認識”, 日本フットボール学会 16th Congress (順天堂大学・千葉), 2018.12
- ・福士徳文, 日本フットボール学会 16th Congress, ポスター発表座長, (順天堂大学・千葉), 2018.12.23

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- ・福士徳文, 慶應義塾大学・読売新聞市民講座「Think サッカー～データからサッカーを考える～」, 講演(トークショー)「サッカーの可能性について考える: スペシャルゲスト・岩政大樹氏」司会担当, (慶應義塾大学・横浜), 2018年5月19日
- ・福士徳文, “教養体育およびスポーツ振興活動中のスチューデント・ファースト”, 慶應義塾大学体育研究所・(公社)全国大学体育連合関東支部共催シンポジウム「スチューデント・ファースト」による大学・スポーツ振興を目指して, (慶應義塾大学・横浜), 2018年12月1日

(講師)

- ・福士徳文, “英国代表チームの事前キャンプ受入に向けた取り組み”, 7大学連携スポーツ・リベラルアーツ講座, 上智大学四谷キャンパス, 2018年11月17日
- ・武蔵野大学教養教育部「健康体育2 スキー実習Ⅱ」非常勤講師, 長野県志賀高原スキー場, 2019年2月11日～2月15日
- ・順天堂大学医療看護学部「野外スポーツ実習(スキー)」非常勤講師, 山形県蔵王温泉スキー場, 2019年2月20日～2月24日

(役職)

- ・デンソーカップチャレンジサッカー大会実行委員
- ・公益社団法人全国大学体育連合総務部委員
- ・公益社団法人全国大学体育連合研修部委員

(ワークショップ)

- ・福士徳文, “慶應義塾大学体育研究所ワークショップ「体育研究所体育科目におけるティーチング・ティップス」”, コーディネーター (慶應義塾大学体育研究所基盤研究3班の活動として), (慶應義塾大学・横浜), 2018年9月1日

研究助成等

- ・“スポーツボランティア参加学生における社会的スキル・自己効力感・ライフスキルの特徴 —横断的調査・第一報—”, 浅野均一記念研究奨励金, 300,000円. 研究代表者: 石手靖
- ・“塾生の健康関連体力の向上啓発プロジェクト”, 2018年度教育・研究調整予算(日吉), 4,647,420円. 代表者: 石手靖
- ・“KEIO スポーツレガシー —東京2020オリンピック英国サポートを通じた“生きる力”を備えた人間育成プロジェクト【KEIO 2020 project】—”, 2018年度未来先導基金, 2,157,000円. 代表者: 石手靖

当年中の研究教育活動の概要

当年の研究活動は、予てよりテーマにしているサッカー選手の体力テストに関する研究、スポーツボランティアに関するアンケート分析を進めた。また、基盤研究3班の活動として、体育研究所体育科目に関わる教員を対象に開催したワークショップのコーディネーターを務めた。

教育活動としては、今年度より KEIO 2020 project に携わり、塾生が主体となって行う活動の推進に努めた。

稲見 崇孝 【助教(有期)】

著書・論文・執筆・報告書

(論文)

- ・Inami, T., Nakagawa, K., Yonezu, T., Fukano, M., Higashihara, A., Iizuka, S., Abe, T., Narita, T., “Tracking of

time-dependent changes in muscle hardness after a full marathon” , J. Strength Cond. Res.,10.1519/JSC.0000000000002495, 2018.

- Fukano, M., Inami, T., Nakagawa, K., Narita, T., Iso, S., “Foot posture alteration and recovery following a full marathon run” , Eur. J. Sports Sci., 18:1338-1345,2018.
- Nakagawa, K., Inami, T., Yonezu, T., Kenmotsu, Y., Narita, T., Kawakami, Y., Kanosue, K., “Unstable rocker shoes promote recovery from marathon-induced muscle damage in novice runners” , Scand. J. Med. Sci. Sports, 28: 621-629, 2018.
- Murayama, M., Inami, T., Shima, N., Nosaka, K., Uchiyama, T., Yoneda, T., “Optimum displacement of muscle in relation to thickness for biceps brachii hardness measurement using a push-in meter” , Biomed. Physical. Eng. Express, 5: 017001, 2018.
- 中垣明美, 稲見崇孝, 佐々木美果, 馬場礼三, “妊婦水泳中に胎児徐脈をきたした一事例”, 日本臨床スポーツ医学会誌, 26 : 144-148, 2018.

(執筆)

- 稲見崇孝, “マラソン前後の筋肉の硬さ変化とリカバリーの方策”, Sportsmedicine, 207 : 8-13, 2018.
- 吉村茜, 広瀬統一, 稲見崇孝, “軟部組織リリース効果に関する文献的検討 フォームローラーを用いた実践”, Creative Stretching, 41 : 1-6, 2018.
- 大類なをみ, 稲見崇孝, “Student power to 2020 Hope Lights Our Way — 若者のムーブメントを未来へつなぐ聖火リレー チームプレーのボランティア”, 206 : 44-45, 2018.
- 久保田あみ, 稲見崇孝, “Student power to 2020 Hope Lights Our Way — 若者のムーブメントを未来へつなぐ聖火リレー 私の見据える2020”, 205 : 24-25, 2018.

(報告書)

- 折笠佑太, 成田崇矢, 小野田圭祐, 大谷真喜子, 稲見崇孝, 野村孝路, 瓶子勇治郎, 徳本奈保美, 内藤直樹, 茶木康寛, 安田千万樹, 金岡恒治, “平成28年度飛込ナショナルジュニア合宿における科学サポート”, 日本水泳連盟飛込委員会報告, 21 : 8-11, 2018.

学会発表等

- Murayama, M., Inami, T., Miyagawa, H., Osaka, K., Yoneda, T. “Resting muscle hardness assessed by a pressure meter in relation to muscle stiffness assessed by ultrasound shear wave elastography”, 23th annual congress of the European College of Sport Science, Dublin, 2018年07月.
- 吉村茜, 稲見崇孝, 峯田晋史郎, 周藤滉平, 広瀬統一, “Foam Roller を用いたセルフマッサージが関節可動域及び筋の形態的特性に与える影響”, 第7回日本アスレティックトレーニング学会学術大会, 神奈川県, 2018年07月.
- 峯田晋史郎, 稲見崇孝, 干場拓真, 東原綾子, 広瀬統一, “膝関節内反位での接地は着地動作時の足関節内反捻挫の受傷リスクを増大させる”, 川崎スポーツリハビリテーションフォーラム, 神奈川県, 2018年09月.
- Mineta,S., Inami, T., Senba, T., Higashihara, A., Hirose, N.” An increasing knee varies angle is a risk factor for lateral ankle sprain during single leg landing” , 43rd Annual Meeting of Japanese Society for Surgery of Foot (JSSF) & the 5th Ankle Instability Group Annual Meeting (AIG), Japan (Chiba), 2018年10月.
- Yoshimura, A., Inami, T., Schleip, R., Mineta, S., Shudo, K., Hirose, N., “Study on mechanism of the increase of range of motion by foam rolling” , The 5th Fascia Research Congress 2018, Germany, 2018年11月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

(講演)

- 稲見崇孝, “Dynamic Knee Valgus のバイオメカニクス”, 膝外傷予防・競技力向上のためのコンディショニングチェックおよびトレーニング, 公益財団法人愛知県理学療法士協会 後援愛知県バスケットボール協会, 愛知県, 2019年2月.

(講師)

- ・大類なをみ, 稲見崇孝, “東京2020大会に向けた慶應義塾大学の取り組み —KEIO 2020 project による国際・地域交流—, 横浜スポーツサミット, 神奈川県, 2019年2月.

(役職)

- ・日本バイオメカニクス学会大会実行委員
- ・KEIO 2020 project プロジェクトコーディネーター

研究助成等

- ・“硬化した筋の復を加速させる方策 アスリートへの実践的研究”, 若手研究, 科学研究費補助金(文部科学省・日本学術振興会), (18K17830), 2,470,000円.
- ・“運動後に生じる筋の硬さ変化の定量化に関する研究 —経口補水液の摂取によって硬さは低減するか—”, 株式会社大塚製薬工場 OS-1 事業部 MF 臨床開発部, (HH183097), 820,000円.
- ・“水泳飛込競技選手における合宿中のハムストリング stiffness 変化 筋内部位差の検討”, 慶應義塾学事振興資金(個人研究), 300,000円.
- ・“塾生の健康関連体力の向上啓発プロジェクト(共同研究者:研究代表者 石手 靖)”, 2018年度教育・研究調整予算(日吉), 4,647,420円.
- ・“KEIO スポーツレガシー —東京2020オリンピック英国サポートを通じた“生きる力”を備えた人間育成プロジェクト【KEIO 2020 project】(共同研究者:研究代表者 石手靖)”, 2018年度未来先導基金, 2,157,000円.

当年中の研究教育活動の概要

継続中の骨格筋特性に関する研究を推進した。そのうちの一つ、早稲田大学広瀬統一研究室とドイツ Ulm 大学の Schleip 研究室との共同研究が国際学会 The Fifth Fascia Research Congress の For Clinical Relevance in Fascia Research Award を受賞した。受賞理由は圧刺激による関節可動域変化の要因を深層筋膜と筋線維のスライディングの観点から考察したことによる (<https://www.keio.ac.jp/ja/research/researchers/award.html>)。また、コーディネーターを務める KEIO 2020 project では未来先導基金の採択を受け英国視察を行うなど、塾内外への認知度向上はもとより、質の向上を意図した教育プログラムを積極的に展開している。

2. 所内定例研究会発表会要旨

第1回 5月15日

佐々木 玲子

幼児の運動能力水準と自由遊び中の出現動作

様々な動きを獲得していく幼児期には、日常生活全般における十分な質と量の身体活動が必要であることが指摘されている(幼児期運動指針、文科省、2012)。また、子どもの運動能力は身体活動量や経験する動きの多寡に影響を受ける可能性が示唆されている。我々は、これまでに幼児の自由遊びを中心とした活動中にどのような動作が出現するかを観察し、日常の動きの多様さと運動能力の関係を探る試みを行っている(日本体育学会、2014他)。

本研究では自主的な遊びがある程度定着している年長児を対象に、運動能力の高い子どもと低い子どもの自由遊び中に見られる動作を両グループ間で比較しその特徴を明らかにすることを目的とした。各対象児について、園内での自由遊び中の活動(約30分間)をVTR撮影し、そこで観察された出現動作を、予め分類した動作項目に対照させて継時的に記録した。そこから自由遊び中の動作項目数、動作時間、出現頻度、等を指標として比較検討を行った。

その結果、運動能力の高い子どもたちは、出現する動作数が多く、また動作速度や活動の展開(動作の転換)も早いことが推測された。一方、運動能力の低い子どもたちは、出現動作も少なかったが、特に女兒では座位での活動時間が長く、全体の活動水準も低い傾向であった。また、どちらのグループにおいても自由遊び時間において出現する動作は限られており、環境の工夫や様々な活動を活用して多様な動作の実施を促す必要性が示唆された。

第1回 5月15日

奥山 静代

ヨガについて～ヨガを深める～

日本のヨガ人口は年々増加しており、2016年には770万人を越えたと推定されている。多くの人に支持されている理由として考えられるのは、心身にさまざまな効果が期待できるからである。ヨガという言葉には「結ぶ」「つなげる」という意味があり、ヨガは「心」と「身体」をつなげて、心が過剰に反応するのを抑えたり、身体の不調をコントロールしたりするのに役立つと言われている。パタンジャリによって著されたヨガの哲学書「ヨガ・スートラ」によると、「ヨガとは心のはたらきを止滅することである」と示されている。すなわち、心のコントロールをアーサナ(=ポーズ)と呼吸法によって行う方法が「ヨガ」であるとし、心と密接に結びついている「身体」と「呼吸」を整えて心を調整し、悟りの境地にたどり着くための方法が考案された。これが現代のヨガの原点である。

しかし、ヨガ独自の世界観もあり、「難しそう」と感じてしまう人もすくなくない。そこで、ヨガの本質をはじめ、ヨガを形づくる3つの要素「アーサナ」、「呼吸法」、「瞑想」についてそれぞれ紹介し、ヨガの歴史や世界中に広がる流派について説明し、ヨガを身近なエクササイズとして捉えることができるよう、ヨガについて報告した。

第2回 6月12日

山内 賢

体育・スポーツにICT教育を活用する試み～観察学習方法と効果の可能性を探る～

【目的】 スポーツにおける運動技術の学習場面では、運動経過を学習者が具体的にイメージするために、学習すべき運動を指導者が口頭で説明する、もしくは、動画映像や連続写真などの視聴覚教材を用いた説明を行う方法が一般である。後者については、PCの普及、

動画圧縮、動画編集技術の進歩によって、自在な提示が比較的簡便に実施できるようになり、映像情報の提供や提示方法も多様化している。しかしながら、それらの映像情報を理解する学習者の観察能力向上に焦点をおいた、映像活用方法の開発については、基礎的研究が不十分である。そこで、本研究の目的は、運動経過を初めて目にする学習者が、どのような映像情報を得れば、どこまで運動構造を理解できるのかを明らかにすることである。

【内容】 運動課題の全体映像を繰り返し再生、スロー再生、コマ送り等で観察するだけでなく、遅延映像やライブ映像を用いた学習の効果の可能性を追求する。映像学習効果は、映像情報から何を得ているのか、学習者の運動感覚や運動構造の理解度に関する実態調査で評価する。この研究は学習者もつイメージと現実フォームの誤差評価をビジュアル的にとらえ、動作の様相を心理的、動作学的に自己分析するモルフォロジー的考察を基にした新たな学習課題を見つける学習方法の意匠へのチャレンジである。

【研究成果の可能性】 観察という視覚情報と遅延映像記録を組み合わせるにより、錯視感覚による情報のエラーを最小限にすることができるので、情報処理に質的向上の可能性を加えることができるという可能性と期待がある。体育・スポーツ指導分野に ITC を取り入れた斬新な学習環境（アクティブラーニング）の創造である。

第2回 6月12日

加藤 大仁

大学における競技スポーツ再考

2011年12月に開催された体研50周年シンポジウムでは、『大学における競技スポーツ：NCAAの諸規定を参考に、そのあり方を考える』と題した発表を行い、大学全体の競技スポーツを統括する団体の必要性や、大学当局

が体育会活動に関与する必要性、学生スポーツのあり方などについて私見を述べた。勿論、これ以前にも大学の競技スポーツが抱える問題点を指摘する声は見られたが、何れも散発的な問題提起に止まり、議論の拡がりは見られなかったといえるだろう。

しかし、ここ2年ほどの間に状況は一変した。2016年には大学スポーツ振興に向けた検討会議がスタートし、日本版NCAAの導入に向けた議論は現在も進行中である。日大アメフト部などの大学スポーツ、ひいてはスポーツ界全体に蔓延るパワハラ問題や、各競技団体の不透明な運営実態が相次いで発覚したことも契機となり、日本版NCAA導入に向けた機運はますます高まるばかりである。

そこで、今回は2011年の発表を基に、日米の大学スポーツの違いや、現在進行形で議論されている日本版NCAAの問題点について報告した。

シンポジウムでの発表とも重複するため、そもそもNCAAとは何ぞや、あるいは、NCAAの諸規定に関する記載は割愛するが、NCAAが長い期間掛けて作られてきた、大学による「自主管理団体」であることは強調しておきたい。

一方、大学スポーツ振興に向けた検討会議が設置されたきっかけは、『日本再興戦略2016』でスポーツ市場規模の拡大が謳われたことであり、座長に馳浩文部科学大臣（当時）が就任したことからも明らかかなように、行政が主導する形でのスタートとなったのである。

加えて、日本版NCAAでは、既存の競技団体や学連も、各大学と同格で参加メンバーとなることが画策されている。となると、各団体のしがらみなどもあり、NCAAのような共通ルール（学業基準、アマチュア規定等）の策定は難しくなるのではないだろうか？ 実際、伝統校と称される大学の中には、競技スポーツに関する運営をOB・OG団体にほ

ば丸投げしてきたところもあるわけで、このような組織形態は大学側のイニシアチブを大きく制限することにもなりかねない。

また、一部の大学ではスポーツが重要な経営資源となっており、大学間での調整も難航することが予想される。現状を鑑みると、NCAAのような厳格なルールの導入は見送り、緩やかなルールを定めてお茶を濁すという可能性すらあるだろう。

何れにせよ、各大学に求められるのは、大学教育の中でスポーツをどのように位置づけるかということに尽きるであり、その前提となるのが、学生としての本分を忘れてはならないということである。

事実アメリカでも、NCAAが抱える問題の多くはコーチや学生アスリート、ひいては大学やNCAAが、学生としての本分を蔑ろにした、あるいは過度な利益を求めたことに起因している。この手の問題に関する我が国の認知度はそれ程高くないが、アメリカではNCAAのシステムは既に破綻しており、組織としての在り方を見直すべきだとの声が根強いことも指摘しておきたい。

第2回 6月12日

鳥海 崇

体育実技「水泳」履修学生の水中安全能力の調査

2012年に Water Competence (水中安全能力) という概念が導入された (Moran et al., 2012)。これは「水難事故を防止に役立つ水中動作だけでなく、水中、水面そして水辺の安全を確保するために役立つ水に関連する知識、態度、行動の総体」と定義された新しい概念であり、15の要素が密接に関係した総合的な能力のことを指す。水難事故の発生を未然に防ぐために必要な能力として近年注目されており、我が国において一般的な4泳法に代表される水平方向に泳ぐ能力だけでなく、また、近年我が国で盛んに研究されている着

衣泳に習熟しているだけでもなく、自身の水泳能力を正確に把握する能力、水辺の環境の安全性を正しく認識し、正しい判断を下せる能力などを含んだ総合的な能力として定義されている (Moran et al., 2012)。この水中安全能力が低いと、特に自然環境下での状況判断及び安全性の判断を誤り水難事故につながる可能性が高いか、もしくは自身の泳力を正確に判断できず、過小見積りをして自然環境下で遊泳する機会を逃してしまうことにつながる。言い伝えや専門家の意見だけではもはや水難事故防止には十分とは言えない、という意見が多数を占め、科学によって水難事故防止に役立つ水中安全能力を明確にするという動きが近年の水難事故防止の研究動向である。

本研究では比較的高い泳力を有する一般の大学生を対象として、水難事故防止に役立つと考えられる水泳実技テストを実施し、そのテスト結果と自己評価についての相関関係を調べた。また、水難事故の危険性があるシナリオに対して、リスクの認識の男女差を調べた。

可泳能力は300m以上が28人と全体の93.3%を占めた。以下、浮漂能力15分以上が26人(86.7%)、背泳ぎ100mを容易に泳げる23人(76.7%)、水深2mへの飛び込みを容易にできる22人(73.3%)、25m潜水を容易にできる5人(16.7%)、25m牽引泳が容易にできる5人(16.7%)であった。統計的に男女間の有意差はみられなかった。

過去に技術を習得している項目についてはテスト結果と自己評価に中程度の相関が見られるが、過去に経験していない項目については相関がみられなかった。

第3回 7月17日

須田 芳正

ロシアワールドカップ総括

日本代表の戦いについて

- ・テンポの良いパスワーク
- ・切り替えの早さ
- ・組織力

日本サッカーの課題

- ・パスワークの精度向上
- ・個の強化、育成
- ・世代交代
- ・新監督の選考
- ・競技人口の増加

世界のサッカーの傾向

- ・ビルドアップの進歩
- ・組織的な守備からロングカウンター
- ・ドイツ、スペインの敗退(ティキ・タカの終焉)

第3回 7月17日

村松 憲

大学生テニス選手のサービスとフォアハンドグラウンドストロークの速度と回転量について

テニスを競技として捉えた場合、ボールの速度と回転量を把握することは極めて重要であると考えられる。しかしながらこれまで、回転量を発表した研究は殆どなく、また有ったとしても実験室でのデータにとどまり、実際の試合のデータは未知のままであった。そこで村松ほか(2010)が世界トップクラス選手の回転量を発表し、村松ほか(2015a)および村松ほか(2015b)がそれぞれサービス、フォアハンドグラウンドストロークの速度と回転量の両方を発表した。また村上ほか(2016)はより短時間で速度と回転量を計測する「トラックマン」の精度について発表を行い、また村松(2017)は相手ボールの「強さ」が自分の打つボールの「強さ」とどのような関係にあるのか、考察を行っている。こ

のように近年、ボール速度と回転量についての研究が盛んに行われるようになった一方、大学生を対象とした研究が少なく、日本トップ選手との比較や世界トップ選手との比較が困難な状況にある。そこで本研究では、大学生トップクラス選手のサービスおよびフォアハンドグラウンドストロークについて、ボールの速度と回転量がどの程度なのかを把握し、日本トップ選手や世界トップ選手とどの程度異なるのか、という点について考察をすることを目的とした。サービスに関しては、日本トップ選手とほぼ同様の速度-回転量関係であった(回帰直線がほぼ重なった)が、回転量が4000rpm以上のショットが殆どなかった。世界トップ選手と比較すると、同じ速度で概ね500rpmほど回転量が少なかった。フォアハンドグラウンドストロークに関しては、同じ速度において、日本トップ選手よりも回転量が概ね1000rpm少なく、世界トップ選手よりも同じく概ね1500rpm少なかった。一般的に競技力が高いほど、同じ速度であれば回転量が多い傾向が見られるため、回転量を増やす取り組みは、競技力向上を目指す際の一つの選択肢である可能性があると思われる。

- ・村松ほか(2010), 世界ランキング50位以内のテニスプレーヤーの国際大会におけるサービス回転量について, スポーツパフォーマンス研究2:220-232.
- ・村松ほか(2015a), 世界トップクラステニス選手のサービスにおける速度と回転量の関係について, テニスの科学23:1-7.
- ・村松ほか(2015b), 世界トップクラステニス選手のフォアハンドグラウンドストロークにおける速度と回転量の関係について, スポーツパフォーマンス研究7:292-299.
- ・村上ほか(2016), ボール挙動測定器を用いたテニスのサービスのボール速度とボール回転数の解析の可能性, スポーツパフォーマンス研究, 8, 361-374.

- ・村松 (2017), テニスにおいて「強い」ボールの返球は「弱く」なりやすいのか?—大学生トップクラス選手における一例からの一考察—, 慶應義塾大学体育研究所紀要, 56(1): 9-22.

第4回 10月16日

村山 光義

日本体育学会を分析する

～第70回大会開催のベースとして～

70年を数える日本体育学会はわが国最大の体育・スポーツに関する学術団体である。しかし、長い学会の歴史の中で様々な変革を経て現在に至っている。第70回大会を慶應義塾大学で引き受けるにあたり、学会の現状と課題などを把握するとともに、歴史的な経緯を知ることが体育研究所の組織的にも学会員としても意義があると考えられる。そこで、本発表は学会の沿革、統計的なデータ・近年の企画内容等の分析から日本体育学会の理解を深めることを目的とした。

日本体育学会は1950年(S25年)に会員60名で発足し、第1回大会(東京大学)では会員数356名、演題数51であった。1962年には第13回大会を慶應義塾大学で開催(演題数406)、1986年第37回大会(筑波大学)で最多演題数845、1994年に会員数6889名で最多となった。その後会員数は2007年まで約1000人減少、6000人前後を維持して現在に至っている。演題数は1986年をピークに減少し、第50回大会後2000年を底に再び増加。近年10年間は800題を超えることもあった。

15の専門領域は発表数の規模に差があり、近年は体育心理学・体育方法・体育科教育学・測定評価・発育発達で演題数が増加傾向にある。学会本部企画では、国際的視点や国内行政との関係のトピック、学会のあり方・若手研究などが継続的に話題となっている。大学体育連合や他学術団体との共催企画もあったが、ここ数年減少している。組織委員会企画

は本部企画と重なるものもあるが、担当大学の特色が打ち出され多彩な内容となっている。

以上を踏まえ、70回大会の企画の1つである領域横断セッションについて、ここ数年の演題タイトルのテキストマイニングからキーワードの抽出を行った。その結果「オリンピック・パラリンピック」「大学生」「トレーニング」を設定し、企画を進めることを報告した。

第4回 10月16日

福土 徳文

サッカーの指導者ライセンス制度について

～A級コーチジェネラル講習会を受講して～

本発表では、サッカーの指導者ライセンス制度について、A級コーチジェネラル講習会の受講内容(2017年度受講)を含め、以下の内容について報告した。

- ① 各ライセンスの概要(サッカーC級～S級、ゴールキーパー、フットサル)
- ② A級コーチジェネラル講習会内容(日程、講義科目、プレゼン実習、レポート課題、口頭試験、Logbookの提出、指導実践(7テーマ)、評価)
- ③ 指導実践テーマについて(テーマの解説、プレーエリア・プレー局面・相手の戦術行動と指導実践テーマについて、意図的な戦術行動とは)
- ④ コーチングの方法(シンクロ、フリーズ、ミーティング、具体的提示、判断基準)
- ⑤ プランニング(W-up、TR1、TR2、GAME、全体像からの逆算、前提作り)
- ⑥ 監督・コーチとは(日常の統率、試合時の統率、信頼関係)
- ⑦ サッカーの特性(競争、勝利、ルール、自由、判断、決断、連続性(攻守)、チームプレー(協働))

また、発表の最後には、自身の指導実践試験の際の映像を使用し、上記内容や指導のポ

イントについて解説した。

第5回 11月13日

増井 国光 スポーツ庁参事官(地域振興担当)

大学スポーツ協会 (UNIVAS) について

現在約90の大学が参加を表明している大学スポーツ協会 (UNIVAS; 旧日本版 NCAA) において、慶應義塾大学は未だ参加を表明していない。体育研究所にその決定権はないものの、関係者や専門家が多数所属していることもあり、スポーツ庁からゲストを招いて今回の講演会が開催された。

大学スポーツ協会について、その成立背景、現状と今後の方向性について約20枚の資料を基に解説した。

現状では3つの検討テーマ「学業充実」、「安心安全」、「マネジメント」についてそれぞれのワーキンググループで詳細を詰めている段階である。

今回、あまり表に出ていない話としては地方を中心に使われていない運動施設が多くあり、大学スポーツ協会として補助金を出すなどの対応で大会を開催し、その地における地域活性化、スポーツファンの獲得を検討している。

約45分の講演後、約45分の質疑があり、非常に白熱した議論となった。聴講者として、須田体育会理事、大下前体育会主事、恩田体育会主任、對馬三田体育会副会長、脇村三田体育会副会長が出席した。

第6回 1月15日

植田 史生

日本剣道形を考える

剣道は武術(実用文化)から武道(武道文化)、武道(競技文化)への移行とそれを取り巻く社会の変化によって、時代と共に求められる内容の違った意味が見いだされるようになる。流祖が打ち立てた流儀の神髄、技術、

理論、精神などをその道の後生に伝達する手段として「かた」が確立された。その後、明治の近代化政策、武道の統括組織としての大日本武徳会の存在、剣道の学校生課編入請願運動等の様々な要素の中で1906年大日本武徳会剣道形太刀の形3本、1912年太刀の形7本、小太刀の形本が制定され現在に至る。しかし、現代剣道は競技としての特性を生かすことで成り立っている。そこで、現代剣道において、日本剣道形の存在意義を考え、人間形成の道としての剣道はどうあるべきかを論じた。また、発表者が1996年から関わりがあるハーヴァード大学を写真をもとに紹介した。

第6回 1月15日

近藤 明彦

3. 大学体育指導者全国研修会報告

報告者：村山光義・福士徳文
期 日：平成30年8月28日(火)～30日(木)
会 場：IPU 環太平洋大学駅前グローバル
キャンパス，第1キャンパス，東
兎が丘マリンヒルズゴルフクラ
ブ，カバヤゴルフガーデン，アー
クホテル岡山

(1) 研修プログラム

■第1日目(8月28日)

1-1. 講演1

演 者：福本浩一(スポーツ庁参事官(地
域振興担当)付企画官)

「スポーツ行政の概要」

1-2. 講演2

演 者：安西祐一郎(全国大学体育連合会
長)

「人間の情報処理と体育」

1-3. 講演3

演 者：和田智仁(鹿屋体育大学スポーツ
情報センター)

「情報機器を活用した大学体育」

1-4. 講演4

演 者：鈴木久雄(岡山大学)

「大学体育における e-Learning を活用した
身体活動増進プログラム」

1-5. ワークショップ

講 師：飯出一秀(IPU・環太平洋大学)

早田 剛(IPU・環太平洋大学)

「空手におけるマルチアングル動画撮影シ
ステムの活用方法」

■第2日目(8月29日)

2. 実技研修 I (東兎が丘マリンヒルズゴルフ クラブ)

講 師：井上建夫(日本プロゴルフ協会副
会長)

■第3日目(8月30日)

3. 実技研修 II (カバヤゴルフガーデン)

講 師：井上建夫(日本プロゴルフ協会副
会長)

※実技研修 I, II は、ゴルフ、フィットネス
エクササイズ、フライングディスクに分か
れて実施(報告者はゴルフを選択)

(2) 研修内容

1-1. 講演1

第2期スポーツ基本計画、スポーツ実施率
向上のための行動計画、大学スポーツの振
興、日本版NCAA(仮称)創設、国内のアンチ・
ドーピング活動における課題など、スポーツ
行政の概要について紹介された。日本版NCAA
については、設立に向けたスケジュールの
シエーマが提示され、平成31年2月を目処に
日本版NCAAを創設する旨の説明がなされ
た。

1-2. 講演2

慶應義塾の元塾長であり、全国大学体育連
合の会長である安西氏より、認知科学の分野
から体育や運動学習との関連についてご講演
いただいた。心を情報処理のシステムとして
捉えるという旨の話の中で、運動中の心の中
を直接データとして取ることはできないが、
その際にコミュニケーションを通じて意図を
伝達し合うことが重要であると述べられた。
教養体育の教員として、コミュニケーション
の重要性を改めて考えさせられる機会となっ
た。

1-3. 講演3

鹿屋体育大学の体育実技授業での情報機器
利用の変遷と現状について講演いただいた。
鹿屋体育大学では、入学時にタブレットを購
入することを必須としており、購入できない
学生は学内に設けている長期貸し出し制度を
利用することで、100%の学生がタブレット

を所持している。コーチング実習等で動画・静止画を活用することの他に、コンディショニング記録、トレーニング記録などにも活用されていると説明がなされた。

1-4. 講演4

岡山大学での体育授業について、スポーツ実技の他に、e-Learningで、理論学習、身体活動増進プログラム、スポーツ実技、基本動作動画の確認を実施していることが紹介された。理論学習では、A. 身体活動の基礎、B. スポーツ医学、C. 健康づくり、D. 競技スポーツ、について自学学習でき、

合否を判定する小テストもe-Learningで実施可能である。スポーツ実技では、全12種目の歴史、ルール等について確認することができる。身体活動プログラムは、アメリカにおける運動処方指針であるCDC/ACSM(ライフスタイル方式)とACSM(エクササイズ方式)、それらを併用した運動基準の3種類を設け、自分の生活に合う継続を前提とした運動プログラムを作成、実践、記録を行うよう展開されていると説明がなされた。

1-5. ワークショップ

ヤマハ株式会社が開発した映像同期技術「ChimeCa™」の紹介がされた。これは、音を用いて複数の映像を同期する技術であり、専用サーバーと複数台のタブレットからマルチアングル動画を撮影することが可能となる。ワークショップ内では、実際に空手の形の撮影を行い、撮影された動画を振り返りながら指導が行われた。

2. 実技研修I

実技研修Iでは、アプローチをテーマに、スタンス幅とボール位置、スイングの大きさとスタンス幅について説明を受けた後、練習場にて実践した。ボールの位置については、左足かかと内側延長線上に固定し、ショート

アイアンでのアプローチの場合は足幅1つ分開いたスタンスで打つことで、ボールを上から見ることになり、振り下ろす感じでボールを捉えることができる。スイングについては、クラブの振り幅を示す「スイングクロック」という考え方について説明を受けた。これはスイングを作る際に時計盤をイメージすることで、スイングの幅を数字で表すことができる。練習では、5時から7時の幅の「スイング1」と4時から8時の幅の「スイング2」を実践した。その際のスタンスは足幅1つ分を開いた「スタンス1」となる。スイングは1～5まで、スタンスは1～3までであるが、これを学生に説明しておくことで、ラウンドの際に教員側からスイングとスタンスの組み合わせで打ち方を指示することができるという実践例についても説明を受けた。

その後は2組に分かれてラウンドを行い、井上氏からレッスンを受けながらコースを回った。

3. 実技研修II

実技研修IIでは、井上氏のレッスンを受けながらも自身のスイング1・2の完成を目指して練習を行った。スイング3(3時9時)からは手首の返しなどが入ってくることにより難易度が上がってくるため、学生への指導の際にはまずスイング1・2をきちんと完成させるようにとのことであった。その後スイング3の練習では、受講生同士でペアを組み、教員役と学生役を決めて指導の実践を行った。3時の方向にテークバックするまでの姿勢から、9時の方向にフォロースルーするまでの姿勢を、まずは井上氏から提示していただき、それを基に実践した。

4. 浅野・所内・学事・小泉基金報告書

① 浅野均一記念研究奨励金

研究課題

スポーツボランティア参加学生における社会的スキル・自己効力感・ライフスキルの特徴

—横断的調査・第一報—

研究代表者 石手 靖

補助額 300,000円

【目的】学生として大学に在籍する期間中に開催される東京大会のボランティア参加の手段のひとつとして、日吉キャンパスで事前キャンプを行うイギリスチームとの活動があり、【KEIO 2020 project】の一員として活動を希望する塾生は年々増加している。しかしながら、当該組織に参加する塾生の客観的なデータの把握には至っておらず、無形レガシーの基礎となる“社会的なスキル”や“自己効力感”、“ライフスキル”の解明は急務の課題といえる。そこで本研究では、当該組織に参加を希望する学生の社会的スキル・自己効力感・ライフスキルに関する実態を把握・数値化する調査の一貫として、記述式アンケート調査を行い、組織入会時における学生の自由記述の全体的な傾向を捉えることを目的とした。

【方法】2018年度中に「KEIO 2020 project アンケート」に回答をした151名（男性：44名、女性：107名）を対象とした。分析には、テキストマイニング手法 (KH Coder) を用いた。なお、共起ネットワークにおける分析にあたっては、出現数による語の取捨選択の最

小出現数を「15」に設定し、描画する共起関係の絞り込みの描画数を「60」に設定した。また、各設問内にある語については、使用しない語に設定した。

【結果および考察】KH Coder を用いて前処理を実行し、文章の単純集計を行った結果を表1に、各設問に対する記述の内容を特徴付ける頻出語の出現回数上位30語を各設問別に表2、表3、表4に示した。次に、この頻出語に対してKH Coderの「共起ネットワーク」のコマンドを用い、各設問に対する記述内容を似通った語（すなわち共起の程度が強い語）を線で結んだネットワークを図1、図2、図3に示した。以下では、各図に示した共起関係をもとに、学生の記述を「」内に抜粋する。なお、文中の“ ”で記しているのは、各図中に現れている頻出語である。Q1では、「自分」が“学生”である期間に“日本”で“オリンピック”が開催されるこの“機会”を生かし、“ボランティア”をするだけではなく歴史を“知っ”たり、“地域”の振興に貢献したい」、「イギリス”の選手の“サポート”をすることで、これまで接する“機会”がなかった異文化圏の“人々”と交流し、自らにとって有益な“経験”をしたい」、などの記述がみられた。Q2では、「自分”の“意見”を“主張”する能力、他者の“意見”に“耳”を“傾け”、“尊重”する能力、また両者の“意見”の落とし所を見つけて合意形成を図る能力が必要不可欠」、「他者の“意見”をしっかりと“理解”する力、“自分”でよく“考え”、その“考え”を“積極的に“発言”する力、そして行動力が重要」などの記述がみられた。また、「他人”の“考え”

表1. 文章の単純集計結果

	Q1	Q2	Q3
文	634	739	769
総抽出語数 (使用)	21,488 (8,212)	21,715 (7,678)	21,760 (7,355)
異なり語数 (使用)	2,264 (1,536)	1,712 (1,405)	1,862 (1,520)

表2. 「Q1：あなたは東京2020オリンピックのBOA ボランティアサポートを通じて、慶應義塾大学の塾生らしく、何をしたいですか？また、何を残したいと思いますか？」についての自由記述における頻出上位30語

順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	オリンピック	226	11	活動	68	21	慶應	48
2	ボランティア	156	12	塾生	63	22	交流	46
3	選手	139	13	BOA	60	23	文化	46
4	サポート	137	14	良い	59	24	知る	44
5	日本	123	15	プロジェクト	55	25	方々	43
6	自分	103	16	関わる	53	26	人々	42
7	イギリス	101	17	学生	52	27	機会	40
8	東京	82	18	経験	51	28	様々	39
9	人	80	19	参加	49	29	関係	38
10	慶應義塾大学	70	20	スポーツ	48	30	持つ	38

表3 「Q2：あなたは他者と議論を交わしながら実践していく機会において、重要かつ必要な能力はどのようなものだと考えますか？また、その考えに対して、現時点での自己評価を記載してください。」についての自由記述における頻出上位30語

順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	意見	435	11	伝える	49	21	取り入れる	30
2	自分	316	12	積極	48	22	出す	28
3	考え	120	13	理解	47	23	感じる	27
4	相手	120	14	主張	43	24	プロジェクト	26
5	人	90	15	発言	37	25	場	25
6	力	90	16	話	37	26	尊重	25
7	聞く	86	17	言う	35	27	自身	24
8	持つ	79	18	受け入れる	34	28	意識	23
9	良い	62	19	他人	33	29	様々	23
10	大切	51	20	経験	32	30	アイデア	22

表4 「Q3：あなたは自国・他国を含めた文化の理解を進めるグローバル化・国際化のために必要な能力はどのようなものだと考えますか？また、その考えに対して、現時点での自己評価を記載してください。」についての自由記述における頻出上位30語

順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	自分	151	11	外国	59	21	価値	40
2	持つ	113	12	コミュニケーション	56	22	違い	36
3	日本	107	13	力	55	23	学ぶ	36
4	人	90	14	感じる	46	24	進める	36
5	知る	89	15	知識	46	25	語学	35
6	国際	82	16	伝える	44	26	積極	35
7	英語	80	17	様々	44	27	大切	35
8	国	71	18	言語	43	28	考え	34
9	相手	64	19	経験	42	29	重要	30
10	受け入れる	63	20	交流	42	30	深める	30

を“聞く”ことは得意ですが、“積極”的に“自分”の“意見”を述べることができていない」といった評価や課題もみられた。Q3では、「“自分”とは異なる価値観を“受け入れる”能力が必要」、「“英語”“力”を基盤としつつ、“語学”能力以外の部分での“コミュニケーション”能力、つまり積極的に人と“話す”“力”が必要」などの記述がみられた。また、「“英語”

“力”がまだまだ足りていない部分なので、この“経験”を通して必ず力を高めたい」といった評価や意欲もみられた。今回は、全体的な傾向を捉えるために頻出語を確認した上で、それらの語の共起ネットワークを描くことで、概観することができた。しかしながら、個々の自由記述は多様であり、最終的には一つ一つの記述を確認することが重要であると

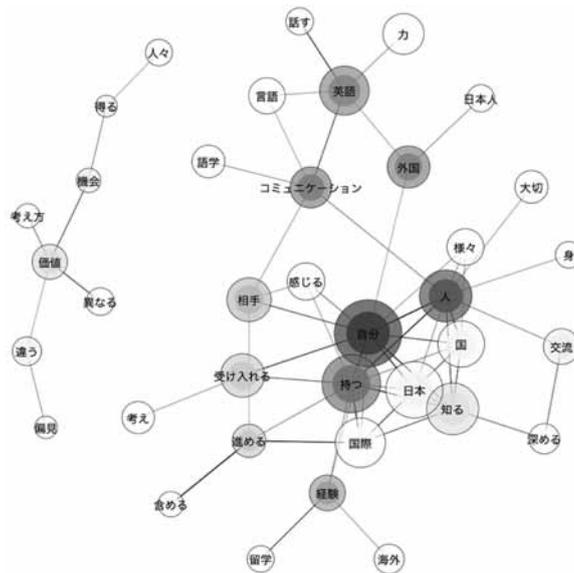


図3 「Q3：あなたは自国・他国を含めた文化の理解を進めるグローバル化・国際化のために必要な能力はどのようなものだと考えますか？また、その考えに対して、現時点での自己評価を記載してください。」についての自由記述の共起ネットワーク

② 所内研究費

研究課題

筋疲労後のマッサージが筋硬度に及ぼす影響 ～筋の層構造を考慮した筋硬度の分離評価から～

研究代表者 村山光義

補助額 497,120円

2018年度所内の研究費補助により、「筋疲労後のマッサージが筋硬度に及ぼす影響 ～筋の層構造を考慮した筋硬度の分離評価から～」の課題について研究の推進をした。

補助金の用途は、① ステージコントローラシステムおよび制御パソコン、② 電動マッサージベッド、③ 数値分析ソフトウェア、④ 実験システム構築のための機材および材料など、であった。我々の筋硬度計測システムは、荷重センサを内蔵した超音波プローブをX軸ステージに装着し、押し込み変位と速度を制御し筋の変形と反力を計測するもので、他の研究を凌駕する新規性と精巧性を有するが、今回ステージをよりコンパクトな装着に交換するとともに自主工作によりシステ

ム全体を刷新することができた。更に、波形処理に新しいソフトウェアを導入し、データ解析精度と時間短縮面が大幅に向上した。また、電動式のマッサージベッドはフットスイッチによって容易に上下動し、実験中に生体と計測システムの位置関係を容易に変化させることが可能となった。本研究補助によるこれらの筋硬度計測・分析システムの改良は計測の信頼性と実験の時間的効率の向上に大きく寄与した。この新たな計測システムの構築によって2018年度には以下のように研究を進めた。

研究計画申請時(2017.8)には、筋損傷誘発後のスポーツマッサージによる筋硬度変化について検討する計画であった。しかし、その後の学会発表などの検討から、本システムの最大の利点である、筋の実際の変形画像から上下層の筋の変形を分離して筋硬度も分離評価する点について、その精度の向上に関する課題の検討を優先すべきと判断した。そのため、2018年度はこの点の基礎的検討について実験を行なった。

男女18名を対象に安静時の上腕屈筋群、大腿部前面について筋硬度計測を行い、上下層の筋硬度分離評価について検討した。上下二層の筋に対し、従来から用いている皮下組織と筋の二層弾性モデルによる分離モデルを適用し、上下層の弾性係数を直列に配列した。上下層を合わせた筋全体の筋硬度情報から上層の筋（上腕二頭筋および大腿直筋）を差し引くことで二層目の筋硬度（上腕筋および中間広筋）を決定することについて分析した。その結果、二層の筋硬度は一層目に対しややわかりやすい結果が得られた。この点に関し、押し込み法においては深部の押し込みが相対的に弱くなってしまっていることが考えられた。また、この検討の過程で、個人の皮下組織厚に関わらず皮下組織の変形比率が同程度である所見が得られた。これらの結果について更にデータを重ね今後報告する予定である。

研究課題

体育・スポーツに ICT 教育を活用する試み

4 その2

～遅延映像を用いた観察学習方法のシステムデザインと効果の可能性を探る～

研究代表者 山内 賢

補助額 145,433円

スポーツ全般において、運動動作の感覚は、観察と感知（体感）がクロスオーバーしたものに委ねている部分が多く、自己の動作がシュミレーションされた深部感覚発生之源であることが予見できる。したがって、運動動作の学習者がフォームを映像で客観的に見たいと思う心情は、「動作学習における自らの発見をターゲットにするアクティブ・ラーニングの実態でもある。また、過去にみられる体育・スポーツの世界で、動作のイメージトレーニングに映像を流用してきた事実は、紛れもなく ICT 教材を活用した「観て考えて実行するアクティブ・ラーニングの形態」でとえられる。このように、映像を

用いるアクティブ・ラーニングは教育の方法であり、ICT 教材のインフラ的な応用は極めて有効である。運動イメージが残っている内に自分のフォームを見ることができたら、すぐさま思うように動きを修正することができるであろう。映像学習の形は様々であるが、今後の運動学習のアクティブ・ラーニングの期待と進展は、ICT 教材の開発に委ねられる。単なるビデオ観察は、動作学習のフィードバックに関して手軽であるが、フィードバックの時間的なラグに難を有するので、フィードフォワードの効果に規制がある。本研究の目的は、フィードバック／フィードフォワードの方法に時間的な工夫を加える意匠を提案するものである。いかに運動の技能が遂行されているかの検討は、理想と実際の動作のズレを修正する機構と過程にある。運動学習は、どのように運動技能が獲得され再現（記憶）できるかの問題解決の追究である²⁾。その解決策として、運動動作を撮影した遅延映像で行うフィードバック学習は、イメージトレーニングとして有効であると考えた。動作の映像が動作終了後に特別な映像再生のコントロールスイッチを扱うことなく、できるだけ早く再生される観察学習は、習得したイメージで行う技能の実態であるフィードフォワードに有効であり、学習過程の反省として重要である。以上を鑑みて、本研究は以下の意匠を検討した。①映像を遅延して鑑賞する特別な装置は効果であるために、遅延映像のアプリケーションソフトと Web カメラおよび市販の民生用カムコーダ（レコーダー一体型ビデオカメラ）および PC の録画機能を組み合わせたインフラストラクチャーを流用した撮影方法（インフラ遅延映像）を提案する。②インフラ遅延映像からアクティブ・ラーニングに活用できる映像観察方法の有効性を暴露する。インフラ遅延映像システムのプロトタイプは完成した。本システムは運動動作指導の ICT 教材として有能で、今後のア

クティブ・ラーニングに革命的な可能性を含んでいる。現在、授業での活用事例としては、ウェイトトレーニングにおけるベンチプレス、スクワットの姿勢矯正を実行している。今後は、様々なスポーツ現場における技術やフォーム矯正に活用する方法を意匠していく。

- 1) 山崎将幸(2013): 競技スポーツにおける映像・情報テクノロジー活用法(3) フィードバックで生きる "スポーツ映像" の撮影, 体育の科学 63(7), pp 563-567.
- 2) Kerr B. (1990): Motor control and learning. Eysenck M. W. (Ed), The Blackwell Dictionary of Cognitive Psychology, Blackwell Publishers, pp.237-240.

本研究課題に関する発表

ポールウォーキングの歩行技術を観察学習する際に全天球カメラを用いる有効性～全天球とハンディカムカメラで撮影した映像の比較による観察と深部感覚のギャップを探る教材の斬新さ～: 日本体育学会第69回大会予稿集 p301

高齢者が行うポールウォーキング学習の動作意識と感性解明に全天球映像を用いる優位性: 第78回日本公衆衛生学会総会抄録集 p559

③ 学事振興資金

研究課題

特別な支援を必要とする人たちを対象としたキャンプの教育的効果と課題

研究代表者 野口 和行

補助額 300,000円

様々な障害や疾患、または経済的な問題や家庭の問題などにより必要となる特別な配慮や支援のことをスペシャルニーズと呼び、その人たちを対象としたキャンプのことをスペシャルニーズ・キャンプ(SNC)と呼ぶ。本

研究では、SNCを行っている団体を対象にインタビュー調査を行い、SNCの実施状況、キャンプ実施による効果と課題を明らかにすることを目的とした。インタビュー調査の内容は、団体の概要、キャンプの対象、団体設立の経緯、活動場所、プログラムの概要、スタッフ、スタッフ募集とトレーニング、キャンプ実施による効果、事業継続に向けた課題とした。今年度は、5団体のインタビュー調査を実施することができた。主な結果は以下の通りである。1) キャンプの対象は、知的障害・発達障害のある青少年、小児ガンを含む慢性疾患の子供とその家族、児童養護施設に通う子供たちなど多種多様であった。2) 団体設立の経緯としては、いずれもそれぞれが持つ個性に伴う様々な困難を解決するために、自然の中での活動や仲間との交流が重要であると考えた保護者や支援者が団体を立ち上げ、NPO 団体、任意団体の形で運営されていた。3) キャンプの期間は日帰りから10泊まで、プログラムは団体の個性に応じて、冒険プログラムから野外料理、クラフトなど様々なプログラムが実施されていた。4) スタッフは殆どが大学生を中心としたボランティアに対して事前研修を行っていた。5) 団体中3団体が、ボランティアが中心となってプログラムの企画から関わっていた。5) 事業継続に向けた課題として共通に挙げられたのは、設立時スタッフの世代交代に伴う人材の確保、ボランティアの確保、財源の確保であった。特に、すべての費用を受益者負担で賄うことは事業の性質から難しく、助成金や、企業・個人からの寄付等事業収入以外の財源の確保がどの団体においても喫緊の課題であることが明らかになった。

本研究課題に関する発表

水流寛二, 野口和行, 辻勢津子, 浅野麻里子, 藤林行夫, 畠中稔生 “特別なニーズを必要とする人を取り巻くこれまでの環境と現

在、そしてこれから”日本福祉文化学会第29回全国大会、2018年10月。

研究課題

水泳飛込競技選手における合宿中のハムストリング stiffness 変化—筋内部位差の検討—

研究代表者 稲見崇孝

補助額 300,000円

水泳飛込競技選手の身長や体重、筋力は3年で大きく変化する(成田ら, 2012)。しかしながら、同報告によれば競技特性上大きく関与するハムストリングなどの下肢後面筋群の柔軟性は変化しない。トレーニングキャンプへの参加により一時的な負荷が集中する場合、柔軟性の低下により腰痛などのスポーツ障害を惹起する危険性も指摘されている(大久保ら, 2008)。また、最近の研究によると負荷の種類によって筋内の損傷の程度に部位差が生じることも報告されている(前大ら, 2016)。本研究では、ジュニア期における水泳飛込選手のトレーニングキャンプ中の骨格筋コンディション変化を追跡した。日本全国のクラブを代表する男女11名のジュニア代表選手が測定に参加した。2日間のキャンプ前(PRE)、1日目(D1)、最終日(D2)に柔軟性の指標として半腱様筋の stiffness (大腿長50%部位(筋腹)と30%(近位)、70%(遠位)を対象)を測定した。測定にはせん断波エラストグラフィ装置を用いた。また、半腱様筋と同じ後面筋群である腓腹筋内側頭や前面筋群である大腿直筋、外側広筋、前脛骨筋も測定した。その結果、各ヤング率はPREからD2へと有意に増加し(筋が硬くなる)、PREに対して正規化した筋間の差がD2の大腿直筋と半腱様筋の間に検出されたが、半腱様筋の筋内部位差は認められなかった。D2で認められた前面/後面筋群のヤング率増加には疲労が関与している可能性が高く、成田らの報告にある長期的な観点において柔軟性が変

化しなかった要因の一つとして考えられた。また前面筋群の stiffness 増加は、前面筋群の柔軟性変化を今後のメディカルチェック項目に追加することを示唆している。一方、半腱様筋において筋内部位差が認められなかったことは、飛込競技の競技特性(空中での過度で素早い体幹の屈曲や、回旋ストレスの繰り返し)では部位差を生じない可能性を示したが今後の研究でさらに検証する必要がある。

本研究課題に関する発表

Inami, T., Narita, T., Yoshimura, A., Yonezu, T., Yamazaki, E., Orikasa, Y., Tezuka, T., Sugiyama, H., Ohtani, M., Hirose, N., Murayama, M. Muscle condition changes in during a training camp for junior elite divers. 24th annual congress of the European College of Sport Science (Czech), July, 3-6, 2019.

④ 小泉基金国外出張補助

研究課題

安静状態の筋における押し込み式筋硬度評価と超音波シェア・ウェーブ・エラストグラフィによる筋硬度比較

RESTING MUSCLE HARDNESS ASSESSED BY A PRESSURE METER IN RELATION TO MUSCLE STIFFNESS ASSESSED BY ULTRASOUND SHEAR WAVE ELASTOGRAPHY, 23th Annual congress of the European College of Sport Science 発表

研究代表者 村山光義

補助額 250,000円

【目的】我々は触診を模倣した筋硬度計測装置(Pressure Meter: PM)によるヤング率(E_{PM})と剪断波エラストグラフィ(Shear Wave Elastography: SWE)によるヤング率(E_{SWE})について比較した。ここで、 E_{PM} は muscle hardness、 E_{SWE} は muscle stiffness の指標とされている。

【方法】被験者は18名で、対象の筋は上腕二頭筋 (Biceps brachii) の肘関節 0、30、90° 条件 (BB0、BB30、BB90)、大腿直筋 (Rectus Femoris: RF、膝関節伸展 0°)、腓腹筋内側 (Gastrocnemius Medialis : GM、足関節底屈 30°) とした。

【結果】BB0、BB30では E_SWE が有意に大きく、RF、GM では E_PM が有意に大きかった。また、両ヤング率には BB0、BB30のみ有意な相関関係が示された (BB0 : $r=0.833$ 、BB30 : $r=0.497$)。SWE のヤング率は剪断波速度に基づく剪断係数によって計算され、PM のヤング率は押圧変位と力の関係から計算されている。また PM は大きな変形 (> 25mm) によって評価されるが、SWE はほぼ無変形である。このため、RF は周囲に他の筋が隣接し、PM の変形抵抗が大きくなったと考えられた。また、BB0、BB30では有意な相関関係が示されたが、値は大きく異なった。

【考察】肘関節伸展による筋長軸方向の stiffness の高まりは E_SWE において顕著に検出されたと考えられる。従って、2つの筋硬度計測はいずれもヤング率として表されるが、PM によって評価される筋硬度 (Hardness) と SWE によって評価される筋硬度 (Stiffness) は基本的に異なる特性を評価していると考えられた。

【文献】Murayama et al., 2012: EJAP,112,105-12.

本研究課題に関する発表

第23回ヨーロッパスポーツ科学会議
2018.7.4 ダブリン・アイルランド

Murayama M, Inami T, Miyagawa H, Nosaka K, Yoneda T, RESTING MUSCLE HARDNESS ASSESSED BY A PRESSURE METER IN RELATION TO MUSCLE STIFFNESS ASSESSED BY ULTRASOUND SHEAR WAVE ELASTOGRAPHY

研究課題

大学主催の健康教室参加者の背景と特徴—
薬学部の事例—

Background of Participants in the Health
Promotion Class by University

2018 Australian Association of Gerontology
Conference 発表

研究代表者 板垣悦子

補助額 200,000円

【目的】日本の大学で授業として開催している健康教室はほとんどありません。慶應義塾大学薬学部では社会貢献活動の一環として、また学生の体験学習の場として地域住民への「健康づくり教室」を授業として開催しています。

「健康づくり教室」は1ヶ月に1回、教員と学生が参加者の体力測定と運動プログラムを提供しています。この教室の参加者の背景と特徴を調査することは将来同様のプログラムを開催したい他大学やまたかかりつけ薬局を目指している薬局薬剤師にとっても有用であると考え、「健康づくり教室」の参加者の背景と特徴を知ることが目的としました。対象者は2017年度「健康づくり教室」に参加した受講者 (全32名) で1/2以上出席した受講者23名を対象に行った。(回答者19名 (回答率83%) 男性6名 女性13名) 調査内容はアンケート調査 (4項目) 1. 生活の背景について 2. 歩行時間・運動習慣について 3. 主観的健康観について 4. 「健康づくり教室」の継続理由についておよび身体計測・体力測定調査を行いました。

【分析方法】1. SPSS (IBM SPSS Statistics 25) 2. KH コーダー (KH Coder 3) で行った。なおアンケート調査および身体計測・体力測定調査は教室の最終日実施しました。

【結果】2017年度の授業は全7回で参加者は32人、4回以上の出席者23人にアンケート調査を行い、19人の回答を得ました。調査内容は生活環境、健康状態、運動習慣について、

回答者の内訳は男性6人(平均年齢74.3歳)、女性13人(平均年齢63.8歳)でした。

【まとめ】男女共に高学歴者が多く、生活環境については主観的経済状況が良いことが特徴としてあげられました。主観的健康観については18人の参加者が「非常に健康的」「健康的」または「正常」と回答しました。男女共にBMIが低く、やせ型傾向でありました。身体活動量が多く、「健康づくり教室」以外でも運動をしている受講者が多く、運動習慣について1週間の平均歩行時間は59分(歩行5.5日/週)、そのほかストレッチ、体操、卓球、ヨガを実施していました。受講者が考えている健康とは「毎日おいしく食べられる」「体が動く」「平常な生活」であり、「健康づくり教室」を継続できた理由は「楽しい」がキーワードとなっており、「楽しい」が「体を動かす」「測定ができる」「教室に参加する」「先生」につながっていた結果となりました。上記受講者の特徴や背景を知ることは今後の大学および薬局における健康イベント開催の際の一助となり得ると思われました。

本研究課題に関する発表

2018 Australian Association of Gerontology Conference, 2018.11.21-23 Melbourne, Australia. Etsuko Itagaki, Yayoi Kibayashi, Noriko Kobayashi, Noriko Sato, Katsunori, Yamaura, Background of Participants in the Health Promotion Class by University

Ⅲ. 教育活動記録

(教育委員会)

Ⅲ－１．授業の実施

本年度の履修者の集計結果は、体育科目全体の履修者数が5175名（前年比－727名）となった。以下に詳細な履修者統計を示し、本年度教育活動の報告と次年度に向けた課題を挙げる。なお、本年度より履修者数の統計には履修取消者数を加えている。そのため、前年度より大幅な人数減少となっている場合もある。

１．2018年度体育科目の履修者統計

1) 体育学講義と体育学演習

2018年度は、体育学講義11コマ（前年比＋2）、体育学演習1コマ（同比同数）を開講した。体育学講義のタイトル及び履修者数を表Ⅲ-1-1に、体育学演習のタイトル及び履修者数を表Ⅲ-1-2に示す。履修者数の合計は、体育学講義で651名（前年比＋87.1%）、体育学演習で3名（同比－21.4%）であった。

体育学講義は、5年連続で10%以上の履修者増となっている。講義内容は、体育・スポーツ科学に関わる人文社会科学、自然科学と多様で幅のある内容を展開している。しかし、履修者は、体育・スポーツ科学の導入としての授業や自身の競技場面に活用できそうな実践的な授業に集中し、体育・スポーツ科学の奥深さを知ることのできる専門的な内容にまで広がっていない。これには制度上の決まりも存在するが、研究所としては授業の面白みを伝える機会を作るなどの詳細な広報を促進していきたい。

2) 体育実技 A・B

表Ⅲ-1-3に体育実技A（ウィークリースポーツクラス）の担当者とそれぞれの担当種目、表Ⅲ-1-4に体育実技A（ウィークリースポーツクラス）の種目別履修状況を示す。表Ⅲ-1-4に示すように、日吉・三田・芝共立合計で5299名の申込（前年比－9.7%）に対

表Ⅲ-1-1. 2018年度 体育学講義のタイトル及び担当者

講義名	コマ数		履修者数
	春	秋計	
スポーツの効用を科学的にみる（スポーツ総論）	1	1	3
スポーツと身体（からだ）の基礎理論	1	1	186
スポーツ現場のコーチングと安全教育	1	1	7
スポーツの数理統計学	1	1	12
スポーツコーチング概論	1	1	204
スポーツパフォーマンスと心理学	1	1	29
オリンピック・パラリンピック論	1	1	142
スポーツの技と文化を探る		1	15
オリンピック競技各論		1	32
現代社会とスポーツ		1	7
健康と運動の科学		1	14

表Ⅲ-1-2. 2018年度 体育学演習のタイトル及び担当者

講義名	コマ数		履修者数
	春	秋計	
スポーツ現場における救急法の基礎		1	3

し、最終的に4332名の履修者（同比-20.0%）となった。定員に対する充足率は、全体で52.5%となり、前年を12.0%程下回った。また、三田・芝共立キャンパス設置科目は、合わせた充足率が27.5%となった。これらの数字は、履修取消者数632名（履修者の14.6%）が引かれたものとなっている。履修取消については、秋学期に435名（取消者の68.8%）となっており、履修調整によって履修できなかった学生（秋学期：288名）の約1.5倍となる。履修者数を増やしていく活動は今後も継続していくが、それに加えて履修する機会を得た学

生が取り消さないよう、体育・スポーツをする魅力を伝える必要がある。

表Ⅲ-1-5に体育実技B（シーズンスポーツクラス）の各種目の担当者及び履修状況を示す。平成30年度は8種目（前年比同数）を開講した。履修者数は155名（前年比-5.4%）で、充足率は44.7%（同比-2.6%）になった。今年度は、科目副題の変更を行うなどの学生にわかりやすく、魅力を伝えられるようにと工夫を行ったが効果は表れなかった。この結果にとらわれず、さらなる工夫を行い、授業の充実を図っていきたい。

表Ⅲ-1-3. 2018年度 体育実技A（ウィークリースポーツクラス）担当者及び担当種目

	担当者	種目
教 授	近藤 明彦	ジョギング, ウォーキング, フィットネストレーニング
〃	佐々木玲子	エアロビクス
〃	植田 史生	剣道
〃	石手 靖	バレーボール
〃	村山 光義	バレーボール, フライングディスク, ニュースポーツ
〃	加藤 大仁	バスケットボール
〃	村松 憲	テニス
〃	山内 賢	フィットネストレーニング, ポールウォーキング
准 教 授	吉田 泰将	剣道, ソフトボール
〃	板垣 悦子	ボディコンディショニング（ピラティス）
〃	加藤 幸司	バドミントン
〃	須田 芳正	サッカー, フットサル
〃	野口 和行	バレーボール, ニュースポーツ, バックカントリースキル（バックパッキング, カヤック）
〃	奥山 静代	ボディコンディショニング（エアロビクス&ヨガ）, ボディメイクエクササイズ, フィットネストレーニング
〃	坂井 利彰	テニス
専 任 講 師	鳥海 崇	水泳, 水球
〃	永田 直也	バスケットボール
助 教 (有 期)	福士 徳文	フットサル
〃	稲見 崇孝	フィットネストレーニング
非 常 勤 講 師	赤井 宏司	ソフトテニス
〃	浅海 友峰	フットサル
〃	厚母 宗子	太極拳
〃	五十嵐 元	バレーボール
〃	石渡 千草	ソフトボール
〃	伊藤 恭二	弓術
〃	伊藤 洋平	フットサル
〃	小幡 典子	アーチェリー

	担当者	種 目
非常勤講師	風間 善明	軟式野球
〃	勝又 正浩	ゴルフ
〃	金指みの利	バレエエクササイズ
〃	川嶋 弘文	卓球（ピンボサイズ）
〃	木林 弥生	卓球
〃	久保田正美	空手
〃	黒部 篤志	柔道
〃	河乃 建仁	気功
〃	小林 裕明	ゴルフ
〃	志賀 正人	テニス
〃	四戸 紀秀	フットサル
〃	島田桂太郎	ボクシング
〃	首藤 聡史	器械体操
〃	杉本 亮子	ボディコンディショニング（ヨガ&ピラティス）
〃	鷺見 全弘	水泳
〃	竹村りょうこ	テニス
〃	田中 雅子	エアロビクス
〃	竹生 淑子	フェンシング
〃	藤平 信一	合気道
〃	鳥屋 智大	テニス
〃	原 莊太郎	テニス
〃	樋口 裕輔	水泳
〃	布川友紀子	ゴルフ
〃	細野 雅歳	バレーボール
〃	宮田 幸典	トランポリン
〃	宮本 千晶	テニス
〃	宮脇 利行	卓球
〃	矢作 拓也	バレーボール
〃	吉田 英雄	自動車

表Ⅲ-1-4. 2018年度 体育実技A（ウィークリースポーツクラス）種目別履修状況

地区	科目名	定員	登録数	倍率	最終履修者数	充足率
日吉地区	アーチェリー	80	77	0.96	50	63%
	合気道	60	41	0.68	37	62%
	ウォーキング	90	2	0.02	4	4%
	エアロビクス	240	162	0.68	178	74%
	空手	56	24	0.43	25	45%
	器械体操	20	17	0.85	17	85%
	気功	150	103	0.69	97	65%
	剣道	200	48	0.24	44	22%
	ゴルフ	296	208	0.70	194	66%
	サッカー	470	187	0.40	165	35%
	自動車	120	103	0.86	73	61%
	柔道	120	9	0.08	8	7%
	ジョギング	30	8	0.27	6	20%
	水泳	600	152	0.25	137	23%
	水球	120	24	0.20	20	17%
	ソフトテニス	40	14	0.35	13	33%
	ソフトボール	192	184	0.96	156	81%
	太極拳	72	38	0.53	43	60%
	卓球	434	393	0.91	283	65%
	テニス	800	559	0.70	498	62%
	トランポリン	30	40	1.33	26	87%
	軟式野球	60	39	0.65	32	53%
	ニュースポーツ	100	39	0.39	38	38%
	バスケットボール	440	392	0.89	304	69%
	バックカントリースキル（バックパッキング）	14	1	0.07	1	7%
	バックカントリースキル（カヤック）	14	1	0.07	1	7%
	バドミントン	200	282	1.41	166	83%
	バレエエクササイズ	120	98	0.82	98	82%
	バレーボール	960	427	0.44	409	43%
	フィットネストレーニング	340	416	1.22	278	82%
	フェンシング	44	7	0.16	3	7%
	フットサル	550	379	0.69	342	62%
	フライングディスク	50	31	0.62	32	64%
ボクシング	160	84	0.53	81	51%	
ボディコンディショニング（エアロビクス&ヨガ）	80	89	1.11	60	75%	
ボディコンディショニング（ピラティス）	160	226	1.41	125	78%	
ボディコンディショニング（ヨガ&ピラティス）	100	160	1.60	82	82%	
日吉合計		7612	5064	0.67	4126	54%
三田・芝地区	テニス	224	93	0.42	85	38%
	バレーボール	100	24	0.24	24	24%
	弓術	100	38	0.38	30	30%
	剣道	80	11	0.14	11	14%
	合気道	60	29	0.48	27	45%
	ボディメイクエクササイズ	80	40	0.50	29	36%
	三田・芝合計		644	235	0.36	206
全体合計		8256	5299	0.64	4332	52.5%

表Ⅲ-1-5. 2018年度 体育実技B（シーズンスポーツクラス）担当者及び履修状況

月	科目名	担当者	定員	登録数	倍率	最終履修者数	充足率
8月	マリンスポーツアクティビティ	鷲見 全弘	25	17	0.68	17	68%
	馬術	高見 幸生	32	15	0.47	16	50%
	山岳「Nature & Trail」	溝渕 明	25	11	0.44	10	40%
	セーリング	金子 隆司	25	8	0.32	5	20%
	ビーチバレー	石手 靖	30	24	0.80	24	80%
9月	アウトドアレクリエーション	野口 和行	50	12	0.24	12	24%
2月	スキー	吉田 久男	120	39	0.33	40	33%
	スケート	小山 正	40	31	0.78	31	78%
計			347	157	0.45	155	45%

2. 授業評価の実施

体育研究所では、体育実技を履修した学生による授業評価を長年継続的に実施し、より適切な授業展開のための基礎資料を得て、授業改善に取り組んでいる。専任教員に加え、非常勤講師（ウィークリースポーツ）においても2011年度秋学期より web 方式によるアンケートの回収を継続している。

実施に際してはこれまでと同様に、授業終了2週間前より入力可能として、回答人数を把握することにより、未実施者に対しては残りの授業で実施を促した。

以下、集計を行った。表Ⅲ-1-6はアンケート回答者数、表Ⅲ-1-7、8にはアンケート調査用紙の質問項目を示した。アンケートの各質問項目には「強くそう思う」（5点）、「そう思う」（4点）、「どちらとも言えない」（3点）、「そうは思わない」（2点）、「全くそう思わない」（1点）の5段階で回答させ、得点化して評価した。Web方式によるアンケ-

ートでは、回答の時間に制限がないため、自由記述に意見を書きやすいというメリットがあるが、回答率は紙面方式より低下しているのが現状である。引き続き、各教員が積極的にアンケートへの回答を促す努力を続けなければならぬ。

表Ⅲ-1-6. 授業評価アンケート回答者数

	アンケート総数
春学期ウィークリー	878
秋学期ウィークリー	353
春学期講義・演習	80
秋学期講義・演習	26
シーズン	48

表Ⅲ-1-7. 授業評価アンケート質問項目（講義・演習・実技）

履修者全員（講義・演習・実技）回答	
設問1	曜日時限を選択してください
設問2	実施地区を選択してください
設問3	自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した
設問4	教員は授業の目的および目標をわかりやすく説明した
設問5	教員の指導・教授方法は適切であった
設問6	教員はこの授業についての十分な知識を持っていた
設問7	教員は授業への学生の参加を促し、適切に助言した
設問8	教員の話し方は聞き取りやすかった
設問9	この授業は塾生にとってふさわしいものだった
設問10	この授業は自分にとって満足出来るものであった
設問11	この授業によって知識を深めることができた
設問12	この授業の目的・ねらいを十分理解できた
設問13	この授業の内容は興味のあるものだった
設問14	このクラスの雰囲気は良好であった
設問15	自分はこの授業に意欲的に取り組んだ
実技履修者のみ回答	
設問16	この授業は健康や体力の向上に役立った
設問17	この授業によって運動技術が向上した
設問18	運動量は適切であった
講義・演習履修者のみ回答	
設問19	配布資料やプレゼンテーションが適切であった
自由記述	
設問20	この授業を履修した理由・動機について記入してください
設問21	授業内容について記入してください（良かった事）
設問22	授業内容について記入してください（改善を要求することなど）
設問23	担当教員について記入してください（良かった事）
設問24	担当教員について記入してください（改善を要求することなど）
設問25	施設および機器・用具等について記入してください（良かった事）
設問26	施設および機器・用具等について記入してください（改善を要求することなど）
設問27	体育科目全般に関する意見および提案について記入してください

表Ⅲ-1-8. 授業評価アンケート質問項目（シーズンスポーツ）

選択肢からの回答	
設問 1	自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した
設問 2	教員は授業の目的および目標をわかりやすく説明した
設問 3	教員の指導・教授方法は適切であった
設問 4	教員はこの授業についての十分な知識を持っていた
設問 5	教員は授業への学生の参加を促し、適切に助言した
設問 6	教員の話し方は聞き取りやすかった
設問 7	この授業は塾生にとってふさわしいものだった
設問 8	この授業は自分にとって満足出来るものであった
設問 9	この授業によって知識を深めることができた
設問10	この授業の目的・ねらいを十分理解できた
設問11	この授業の内容は興味のあるものだった
設問12	このクラスの雰囲気は良好であった
設問13	自分はこの授業に意欲的に取り組んだ
設問14	この授業は健康や体力の向上に役立った
設問15	この授業によって運動技術が向上した
設問16	運動量は適切であった
自由記述	
設問17	この授業を履修した理由・動機について記入してください
設問18	授業内容について記入してください（良かった事）
設問19	授業内容について記入してください（改善を要求することなど）
設問20	担当教員について記入してください（良かった事）
設問21	担当教員について記入してください（改善を要求することなど）
設問22	施設および機器・用具等について記入してください（良かった事）
設問23	施設および機器・用具等について記入してください（改善を要求することなど）
設問24	体育科目全般に関する意見および提案について記入してください

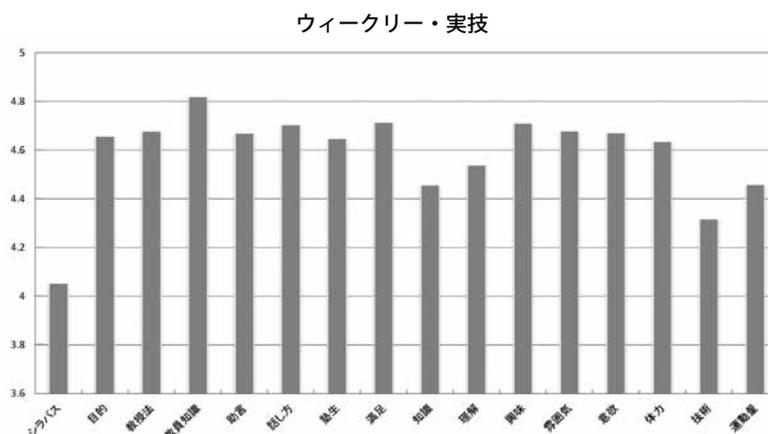
1) 体育実技ウィークリー種目の授業評価

体育実技ウィークリー種目における質問項目別5段階評価（平均値±標準偏差）を図Ⅲ-1-1（春学期）、図Ⅲ-1-2（秋学期）に示した。結果をみるとほぼ例年と同様の傾向であり、以下のようにまとめられる。

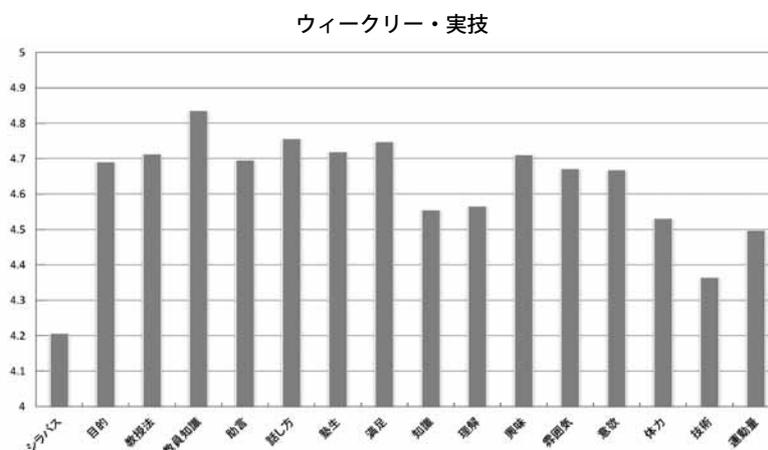
春・秋の学期間に差はほとんどなく、同じ傾向が得られている。全般に4点以上の肯定的評価がほとんどであった。平均値で最も高い評価となったものは、「教員はこの授業についての十分な知識を持っていた」（春：4.8±0.4、秋：4.9±0.4）であり、「教員の指導・教授方法は適切であった」、「教員の話し方は聞き取りやすかった」等教員に対する評価に加え、「満足度」も高い値を示した。

一方、最も平均点が低いものは「自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した」であった（春：4.1±1.0、秋：4.3±0.8）。このことは、曜日や時限による制約から単に時間割を埋めるために履修していたり、第1希望の種目に抽選漏れした学生が他の種目を履修していたりすることが考えられる。

表Ⅲ-1-9、10には春学期・秋学期の種目別の5段階評価を示した。その結果「運動技術の向上」、などが低い値を示し、個人種目7種目などが3点台であった。種目の違いにより技術向上の難易度は異なるため、そのことを教員が理解させながら履修者に伝える必要があると考えられる。



図Ⅲ-1-1. 授業に関する質問項目別の5段階評価（春学期実技ウィークリー全体平均）



図Ⅲ-1-2. 授業に関する質問項目別の5段階評価（秋学期ウィークリー全体平均）

表Ⅲ-1-9. 種目別の5段階評価集計一覧（春学期ウィークリー）

種目名	回答数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
アーチェリー	11	平均	3.8	3.8	3.9	4.2	3.9	3.6	4.2	4.2	4.5	3.8	4.4	4.3	4.6	4.0	3.9	3.9
		標準偏差	0.8	1.0	0.9	1.1	0.8	1.1	0.9	1.0	0.5	1.0	0.7	1.2	0.5	0.9	0.7	0.8
合気道	19	平均	3.8	4.8	4.7	4.9	4.9	5.0	4.9	4.7	4.8	4.7	4.8	4.7	4.5	4.6	4.2	4.3
		標準偏差	1.1	0.4	0.5	0.3	0.3	0.0	0.3	0.6	0.4	0.5	0.4	0.5	0.6	0.5	0.6	0.7
ウォーキングエクササイズ (ボールウォーキング)	2	平均	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	5.0	4.5	4.5	3.0	4.0	3.5	5.0	4.5
		標準偏差	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0	0.7	0.7	1.4	0.0	2.1	0.0	0.7
エアロビクス	38	平均	4.1	4.7	4.8	4.9	4.7	4.8	4.7	4.5	4.3	4.6	4.6	4.6	4.7	4.6	4.0	4.4
		標準偏差	1.0	0.4	0.4	0.3	0.5	0.4	0.4	1.0	0.7	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.8	0.6
空手	6	平均	3.7	5.0	5.0	4.8	5.0	4.7	4.8	4.5	4.5	4.5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.5	4.7
		標準偏差	0.8	0.0	0.0	0.4	0.0	0.5	0.4	0.8	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.8
気功	17	平均	4.4	4.6	4.5	4.6	4.5	3.4	4.2	4.8	4.6	4.5	4.6	4.4	4.3	3.8	3.3	3.9
		標準偏差	0.7	0.5	0.6	1.0	0.7	0.8	0.8	0.4	0.6	0.5	0.6	0.7	0.7	1.1	1.0	0.9
弓術	2	平均	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	5.0	4.5	4.5	4.0	4.0	4.0
		標準偏差	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	0.0	0.7	0.7	1.4	1.4	1.4
剣道	19	平均	4.3	4.9	4.8	5.0	4.6	4.8	4.7	4.7	4.8	4.6	4.6	4.9	4.6	4.7	4.6	4.5
		標準偏差	1.0	0.3	0.4	0.0	0.5	0.4	0.6	0.6	0.4	0.5	0.6	0.3	0.6	0.5	0.7	0.6
ゴルフ	37	平均	4.1	4.5	4.5	4.8	4.5	4.7	4.6	4.6	4.5	4.5	4.6	4.5	4.7	4.6	4.5	4.4
		標準偏差	0.9	0.6	0.7	0.5	0.6	0.5	0.5	0.7	0.8	0.8	0.5	0.7	0.6	0.6	0.8	0.7
サッカー	44	平均	4.0	4.5	4.7	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.2	4.5	4.7	4.5	4.6	4.8	4.5	4.4
		標準偏差	1.0	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.5	0.6	0.9	0.5	0.5	0.7	0.6	0.4	0.8	0.9
自動車	18	平均	4.4	4.6	4.7	4.9	4.6	4.8	4.8	4.9	4.7	4.4	5.0	4.6	4.6	4.2	4.4	4.2
		標準偏差	0.8	0.8	0.6	0.3	0.6	0.5	0.4	0.3	0.5	0.9	0.0	0.8	1.0	0.7	0.5	0.6
柔道	2	平均	4.5	4.4	4.6	4.6	4.4	4.6	4.5	4.6	4.5	4.2	4.7	4.4	4.3	4.2	4.2	4.0
		標準偏差	0.7	1.0	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.2	1.2	1.1	1.3	1.1	1.0	1.0
水泳	34	平均	3.9	4.6	4.6	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.5	4.5	4.8	4.8	4.7	4.8	4.4	4.6
		標準偏差	1.4	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	0.5	0.4	0.6	0.4	0.7
水球	4	平均	3.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8
		標準偏差	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5
ソフトテニス	4	平均	3.5	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	5.0	4.5	4.8	5.0	5.0	5.0	4.8	4.0	4.0
		標準偏差	1.9	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	0.0	0.6	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.8	0.8
ソフトボール	22	平均	3.8	4.4	4.6	4.6	4.5	4.6	4.7	4.8	4.3	4.4	4.7	4.8	4.5	4.7	4.5	4.5
		標準偏差	1.1	0.6	0.6	0.7	0.7	0.5	0.5	0.4	0.9	0.8	0.6	0.4	0.7	0.7	0.7	0.5
太極拳	16	平均	4.0	4.6	4.4	4.9	4.7	4.8	4.3	4.4	4.3	4.6	4.7	4.3	4.2	3.1	3.6	
		標準偏差	0.7	0.5	0.5	0.3	0.5	0.4	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.8	1.1	1.0	
卓球	68	平均	4.2	4.7	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8	4.5	4.6	4.7	4.8	4.8	4.6	4.5	4.6
		標準偏差	0.8	0.5	0.4	0.4	0.5	0.6	0.5	0.4	0.8	0.6	0.5	0.6	0.4	0.6	0.7	0.6
テニス	113	平均	4.2	4.7	4.7	4.9	4.7	4.9	4.8	4.8	4.5	4.6	4.8	4.8	4.8	4.7	4.6	4.6
		標準偏差	1.0	0.5	0.5	0.4	0.5	0.4	0.5	0.4	0.7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6
トランポリン	13	平均	4.2	4.8	5.0	5.0	5.0	4.7	4.9	4.8	4.6	4.5	5.0	5.0	5.0	4.8	4.5	4.4
		標準偏差	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	1.1	0.3	0.6	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7	0.8
軟式野球	6	平均	4.3	4.7	4.8	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.2	4.5	4.8	4.5	4.7	4.7	4.3	4.5
		標準偏差	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	0.8	0.5	0.4	0.8	0.5	0.5	0.8	0.5
ニュースポーツ	5	平均	4.2	4.8	4.6	4.8	4.8	4.8	4.8	5.0	4.6	4.6	4.4	4.2	4.8	4.6	4.4	4.6
		標準偏差	1.3	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.0	0.5	0.5	0.5	1.1	0.4	0.5	0.5	0.9
バスケットボール	41	平均	3.8	4.5	4.4	4.6	4.4	4.6	4.4	4.5	4.0	4.4	4.5	4.6	4.6	4.7	4.4	4.3
		標準偏差	1.0	0.6	0.7	0.6	0.7	0.7	0.7	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7	0.5	0.6	0.8	0.8
バックカントリースキル	1	平均	4.0	5.0	4.0	4.0	5.0	4.0	4.0	4.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
バドミントン	25	平均	3.6	4.2	4.5	4.7	4.4	4.3	4.3	4.6	4.4	4.2	4.6	4.6	4.6	4.8	4.4	4.5
		標準偏差	1.2	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7	0.8	0.7	0.6	0.9	0.4	0.7	0.6
バレエエクササイズ	30	平均	4.6	4.8	4.8	5.0	4.8	4.9	4.6	4.8	4.6	4.6	4.9	4.7	4.8	4.7	4.0	4.5
		標準偏差	0.5	0.4	0.4	0.2	0.5	0.3	0.6	0.5	0.6	0.6	0.3	0.5	0.4	0.5	0.9	0.5
バレーボール	77	平均	3.5	4.6	4.6	4.7	4.6	4.7	4.5	4.7	4.1	4.4	4.6	4.8	4.7	4.5	4.1	4.5
		標準偏差	1.2	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.8	0.5	1.0	0.7	0.7	0.5	0.5	0.7	0.9	0.6
フィットネストレーニング	60	平均	4.4	4.8	4.8	4.8	4.7	4.8	4.6	4.7	4.5	4.6	4.7	4.6	4.6	4.7	4.3	4.5
		標準偏差	0.8	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.7	0.6	0.5	0.8	0.7
フェンシング	1	平均	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	5.0	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	4.0	4.0
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
フットサル	83	平均	4.1	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9	4.8	4.9	4.6	4.7	4.9	4.7	4.7	4.8	4.5	4.6
		標準偏差	1.0	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.5	0.6	0.5	0.7	0.6
フライングディスク	12	平均	3.9	4.6	4.3	4.9	4.7	4.8	4.5	4.6	4.5	4.6	4.7	4.7	4.7	4.4	4.4	3.9
		標準偏差	1.2	0.5	0.6	0.3	0.7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	0.9	0.5	0.5	0.7	0.5	0.8
ボクシング	5	平均	4.2	4.6	4.8	5.0	4.8	5.0	4.8	4.8	5.0	4.8	5.0	5.0	4.8	4.8	4.6	4.8
		標準偏差	1.3	0.5	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4	0.4	0.9	0.4
ボディコンディショニング (エアロビクス&ヨガ)	8	平均	4.4	4.6	4.6	4.8	4.4	4.6	4.5	4.9	4.6	4.5	4.9	4.6	4.4	4.5	4.0	4.6
		標準偏差	0.7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5	0.8	0.5
ボディコンディショニング (ピラティス)	20	平均	4.1	4.9	4.7	5.0	5.0	4.9	4.8	5.0	4.9	4.8	4.8	5.0	4.8	5.0	4.4	4.6
		標準偏差	0.9	0.3	0.9	0.0	0.2	0.4	0.4	0.0	0.4	0.4	0.7	0.2	0.4	0.2	0.7	1.0
ボディコンディショニング (ヨガ&ピラティス)	13	平均	4.1	4.4	4.6	4.9	4.4	4.7	4.5	4.6	4.5	4.3	4.5	4.3	4.6	4.7	3.8	4.2
		標準偏差	0.8	0.5	0.5	0.3	0.8	0.5	0.7	0.5	0.5	0.6	0.5	0.8	0.7	0.5	0.9	0.9
ボディメイクエクササイズ	2	平均	4.0	4.5	4.5	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.0	3.5	4.5	5.0	4.5	3.5	3.0	4.5
		標準偏差	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	0.0							

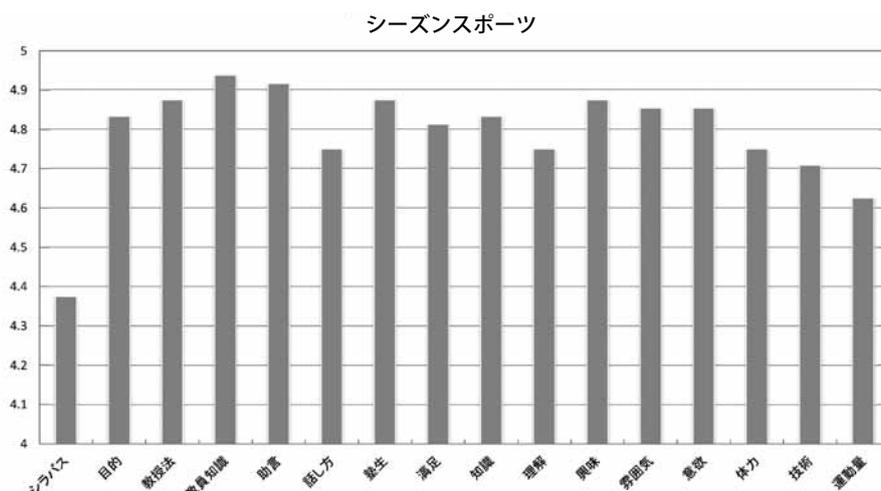
表Ⅲ-1-10. 種目別の5段階評価集計一覧（秋学期ウィークリー）

種目名	人数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
アーチェリー	10	平均	3.50	4.20	4.50	4.70	4.20	4.70	4.90	4.80	4.70	4.50	5.00	4.90	4.90	4.40	4.40	4.33
		標準偏差	1.18	0.63	0.53	0.48	0.63	0.48	0.32	0.42	0.48	0.53	0.00	0.32	0.32	0.70	0.70	0.71
ウォーキングエクササイズ	1	平均	3.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
エアロビクス	29	平均	3.97	4.72	4.69	4.86	4.59	4.83	4.62	4.62	4.41	4.55	4.55	4.55	4.45	4.41	3.86	4.59
		標準偏差	0.82	0.45	0.47	0.35	0.57	0.38	0.49	0.49	0.57	0.51	0.57	0.51	0.57	0.63	0.79	0.57
エアロビクス&ヨガ	4	平均	4.25	4.50	4.75	4.50	4.50	4.75	4.50	4.50	4.00	4.00	4.25	4.50	4.25	4.25	3.75	4.00
		標準偏差	0.50	0.58	0.50	0.58	0.58	0.50	1.00	0.58	0.82	0.82	0.50	0.58	0.50	0.96	0.96	0.82
ゴルフ	15	平均	3.93	4.40	4.60	4.87	4.27	4.87	4.80	4.87	4.60	4.53	4.73	4.60	4.80	4.53	4.73	4.53
		標準偏差	1.22	0.51	0.63	0.35	0.88	0.35	0.41	0.35	0.51	0.64	0.46	0.51	0.41	0.64	0.59	0.64
サッカー	19	平均	3.58	4.53	4.63	4.74	4.58	4.68	4.63	4.58	4.16	4.32	4.21	4.16	4.05	4.68	4.26	4.42
		標準偏差	1.43	0.51	0.60	0.45	0.51	0.48	0.60	0.51	0.76	0.75	0.98	1.12	1.13	0.48	0.87	0.77
ジョギング	2	平均	4.00	4.50	4.50	5.00	5.00	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.00	4.00	4.50	4.00	3.00	4.00
		標準偏差	1.41	0.71	0.71	0.00	0.00	0.71	0.71	0.71	0.71	0.71	1.41	0.00	0.71	0.00	—	—
ソフトテニス	1	平均	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ソフトボール	20	平均	4.35	4.55	4.75	4.75	4.80	4.85	4.80	4.75	4.45	4.45	4.80	4.80	4.90	4.55	4.42	4.55
		標準偏差	0.75	0.69	0.44	0.44	0.41	0.37	0.41	0.55	0.60	0.69	0.41	0.41	0.31	0.83	0.61	0.60
テニス	37	平均	4.46	4.84	4.92	4.97	4.86	4.92	4.92	4.84	4.86	4.84	4.95	4.78	4.84	4.70	4.73	4.70
		標準偏差	0.69	0.37	0.28	0.16	0.35	0.36	0.28	0.55	0.35	0.37	0.23	0.42	0.37	0.57	0.51	0.62
ニュースポーツ	1	平均	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
バスケットボール	13	平均	3.92	4.85	4.85	4.92	4.77	4.92	4.85	4.85	4.31	4.69	4.77	4.85	4.77	4.77	4.62	4.62
		標準偏差	1.19	0.38	0.38	0.28	0.44	0.28	0.38	0.38	0.75	0.48	0.44	0.38	0.44	0.44	0.65	0.87
バドミントン	9	平均	4.33	4.78	4.78	4.89	4.78	4.78	4.78	4.78	4.67	4.78	4.56	4.78	4.78	4.67	4.44	4.56
		標準偏差	0.71	0.44	0.44	0.33	0.44	0.44	0.44	0.44	0.50	0.44	0.53	0.44	0.44	0.50	0.53	0.53
バレエエクササイズ	8	平均	4.50	4.63	4.75	4.75	4.75	4.88	4.75	4.88	4.50	4.50	4.75	4.50	4.50	4.38	4.00	4.50
		標準偏差	0.53	0.52	0.46	0.46	0.46	0.35	0.46	0.35	0.76	0.53	0.46	0.53	0.53	0.52	0.93	0.53
バレーボール	20	平均	3.95	4.60	4.70	4.80	4.75	4.80	4.65	4.75	4.20	4.55	4.75	4.85	4.95	4.70	4.45	4.55
		標準偏差	0.83	0.50	0.57	0.41	0.44	0.41	0.59	0.64	1.01	0.60	0.72	0.49	0.22	0.73	0.83	0.60
ピラティス	6	平均	4.17	4.83	5.00	4.50	4.83	5.00	4.67	4.83	5.00	4.67	4.67	4.50	4.67	4.83	4.50	4.83
		標準偏差	0.75	0.41	0.00	0.84	0.41	0.00	0.52	0.41	0.00	0.52	0.82	0.84	0.52	0.41	0.55	0.41
フィットネストレーニング	27	平均	4.59	4.78	4.63	4.78	4.74	4.70	4.52	4.67	4.44	4.52	4.63	4.52	4.56	4.67	4.30	4.44
		標準偏差	0.50	0.42	0.49	0.42	0.45	0.47	0.64	0.55	0.75	0.58	0.56	0.51	0.51	0.55	0.78	0.75
フェンシング	2	平均	4.50	4.50	4.50	5.00	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	5.00	4.50	4.50	4.50	4.50
		標準偏差	0.71	0.71	0.71	0.00	0.71	0.71	0.71	0.71	0.71	0.71	0.71	0.00	0.71	0.71	0.71	0.71
フットサル	15	平均	4.00	4.73	4.73	4.93	4.73	4.87	4.80	4.87	4.80	4.73	4.87	4.73	4.67	4.60	4.40	4.47
		標準偏差	1.25	0.46	0.46	0.26	0.46	0.35	0.41	0.35	0.41	0.46	0.35	0.46	0.62	0.51	0.74	0.64
フライングディスク	4	平均	3.75	4.75	4.75	5.00	4.25	4.75	4.50	4.75	4.75	4.00	4.75	4.75	5.00	4.25	4.00	3.75
		標準偏差	1.26	0.50	0.50	0.00	0.96	0.50	0.58	0.50	0.50	0.82	0.50	0.50	0.00	0.96	0.82	0.96
ポールウォーキング	1	平均	3.00	5.00	3.00	5.00	4.00	5.00	3.00	4.00	5.00	5.00	4.00	3.00	4.00	4.00	3.00	2.00
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ボクシング	5	平均	4.80	5.00	4.80	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.80	5.00	5.00	4.80	4.80
		標準偏差	0.45	0.00	0.45	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.45	0.00	0.00	0.45	0.45
ボディメイクエクササイズ	2	平均	4.00	4.50	4.50	4.00	4.50	5.00	4.50	4.50	4.00	4.00	4.50	4.50	4.00	4.50	3.50	4.00
		標準偏差	0.00	0.71	0.71	0.00	0.71	0.00	0.71	0.71	0.00	0.00	0.71	0.71	0.00	0.71	0.71	1.41
ヨガ&ピラティス	5	平均	4.00	4.80	4.40	4.80	4.60	4.40	4.80	4.80	4.80	4.60	4.60	4.40	4.40	4.20	4.00	4.60
		標準偏差	1.22	0.45	0.55	0.45	0.55	0.55	0.45	0.55	0.45	0.55	0.55	0.55	0.55	0.84	0.71	0.55
器械体操	4	平均	4.50	4.75	4.75	5.00	4.50	4.75	4.50	4.75	4.50	4.50	4.75	4.25	4.50	4.25	4.75	4.25
		標準偏差	0.58	0.50	0.50	0.00	0.58	0.50	0.58	0.50	0.58	0.58	0.50	0.50	0.58	0.50	0.50	0.50
気功	9	平均	4.44	4.00	4.22	4.44	4.67	3.00	4.11	4.33	4.33	4.22	4.44	4.33	4.44	3.33	2.67	3.78
		標準偏差	0.53	0.87	0.83	1.33	0.50	1.22	0.78	0.71	1.32	0.67	0.73	1.00	0.73	1.12	0.87	0.97
弓術	7	平均	4.43	4.86	4.71	4.86	4.57	4.57	4.71	4.86	4.71	4.43	4.86	4.86	4.57	4.57	4.57	4.57
		標準偏差	1.13	0.38	0.49	0.38	0.53	0.53	0.49	0.38	0.49	0.53	0.38	0.38	0.53	0.53	0.53	0.53
空手	3	平均	4.00	4.33	5.00	5.00	4.67	5.00	5.00	5.00	4.33	4.33	4.67	4.67	5.00	5.00	4.33	4.33
		標準偏差	1.00	0.58	0.00	0.00	0.58	0.00	0.00	0.00	0.58	0.58	0.58	0.58	0.00	0.00	0.58	1.15
剣道	17	平均	4.18	4.82	4.71	5.00	4.88	4.88	4.76	4.71	4.82	4.47	4.76	4.88	4.65	4.35	4.47	4.44
		標準偏差	0.95	0.39	0.47	0.00	0.33	0.33	0.44	0.59	0.39	0.62	0.56	0.33	0.79	0.70	0.62	0.73
合気道	12	平均	4.17	4.83	4.75	5.00	5.00	5.00	4.83	4.83	4.75	4.58	4.67	4.83	4.67	4.33	4.08	4.17
		標準偏差	1.11	0.39	0.45	0.00	0.00	0.00	0.39	0.39	0.45	0.51	0.49	0.39	0.49	0.65	0.79	0.72
自動車	3	平均	4.67	4.67	4.67	4.67	4.33	4.33	4.67	4.67	4.67	4.33	5.00	4.67	4.67	4.33	4.67	4.33
		標準偏差	0.58	0.58	0.58	0.58	0.58	0.58	0.58	0.58	0.58	0.58	0.00	0.58	0.58	0.58	0.58	0.58
柔道	1	平均	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水泳	11	平均	4.55	4.82	4.73	4.73	4.64	4.55	4.82	4.82	4.27	4.73	4.91	4.82	4.91	5.00	4.82	4.82
		標準偏差	0.93	0.60	0.47	0.65	0.67	0.93	0.40	0.40	1.10	0.65	0.30	0.40	0.30	0.00	0.40	0.60
水球	3	平均	4.00	5.00	4.67	5.00	4.67	4.67	4.67	4.67								

2) シーズンスポーツ種目の授業評価

シーズンスポーツ種目における5段階評価(平均値±標準偏差)を図Ⅲ-1-3に、また種目別の5段階評価を表Ⅲ-1-11に示した。すべての項目とも平均値で4点をこえる肯定的評価が得られている。特に「教員はこの授業についての十分な知識を持っていた」(4.9

±0.3)「教員は授業への学生の参加を促し、適切に助言した」(4.8±0.4)、「この授業は塾生にとってふさわしいものだった」(4.8±0.4)などが高い得点を示した。一方、「運動量は適切であった」は他の項目と比較して低い値(4.2±1.0)を示した。



図Ⅲ-1-3. 授業に関する質問項目別の5段階評価 (シーズンスポーツ全体平均)

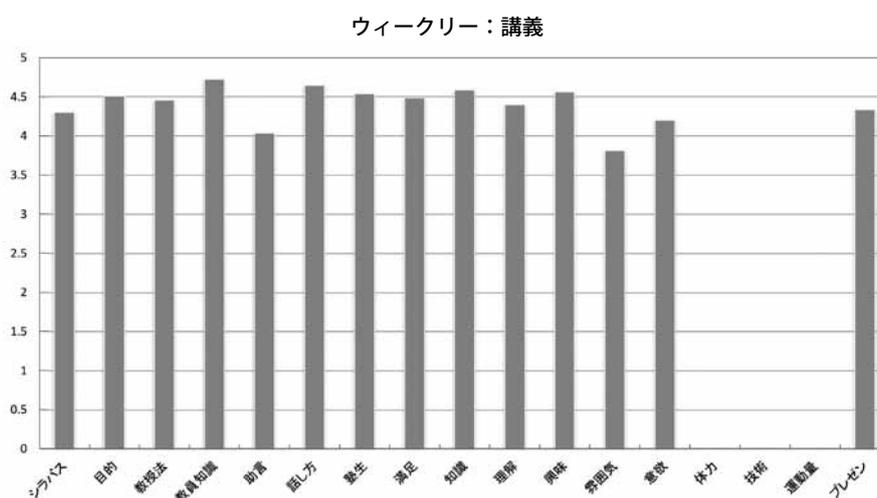
表Ⅲ-1-11. 種目別の5段階評価集計一覧 (シーズンスポーツ)

種目名	回答数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
アウトドアレクリエーション	3	平均	4.67	4.67	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		標準偏差	0.58	0.58	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
スキー	19	平均	4.26	4.74	4.74	4.95	4.89	4.63	4.79	4.58	4.74	4.68	4.74	4.79	4.79	4.53	4.53	4.32
		標準偏差	0.99	0.45	0.45	0.23	0.32	0.60	0.42	0.61	0.56	0.48	0.45	0.42	0.42	0.77	0.61	0.95
スケート	6	平均	4.17	5.00	5.00	4.83	4.67	4.50	4.83	5.00	4.67	4.67	4.83	5.00	5.00	4.67	4.67	4.50
		標準偏差	0.75	0.00	0.00	0.41	0.52	0.84	0.41	0.00	0.82	0.52	0.41	0.00	0.00	0.82	0.82	0.55
セーリング	4	平均	4.50	4.50	5.00	5.00	5.00	4.75	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	4.50	4.50	5.00	4.50	4.75
		標準偏差	1.00	0.58	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	1.41	0.00	1.00	1.00	0.00	1.00	0.50
ビーチバレー	5	平均	4.20	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.80	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		標準偏差	1.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.45	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マリンスポーツアクティビティ	4	平均	4.75	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		標準偏差	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
馬術	7	平均	4.57	5.00	4.86	4.86	5.00	4.86	4.86	4.86	5.00	5.00	5.00	4.86	4.86	4.86	4.86	4.86
		標準偏差	0.79	0.00	0.38	0.38	0.00	0.38	0.38	0.38	0.00	0.00	0.00	0.38	0.38	0.38	0.38	0.38
シーズン全体	28	平均	4.38	4.83	4.88	4.94	4.92	4.75	4.88	4.81	4.83	4.75	4.88	4.85	4.85	4.75	4.71	4.63
		標準偏差	0.89	0.38	0.33	0.24	0.28	0.53	0.33	0.45	0.48	0.56	0.33	0.41	0.41	0.60	0.58	0.70

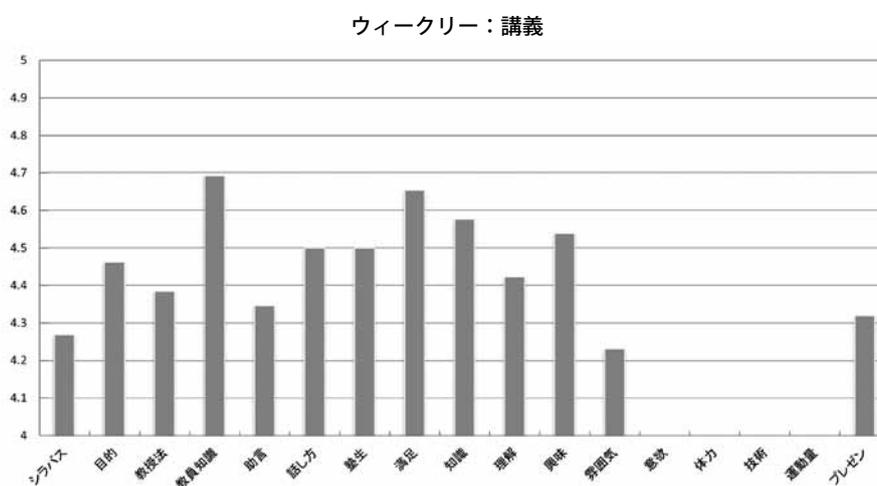
3) 講義・演習科目の授業評価

講義・演習科目の授業評価についての結果を図Ⅲ-1-4（春学期）、図Ⅲ-1-5（秋学期）に示した。ほとんどの項目とも平均値で4点をこえる肯定的評価が得られている。特に昨

年度同様、「教員はこの授業についての十分な知識を持っていた」は高い値を示した。（春：4.7±0.5、秋：4.9±0.3）



図Ⅲ-1-4. 授業に関する質問項目別の5段階評価（春学期全体平均）



図Ⅲ-1-5. 授業に関する質問項目別の5段階評価（秋学期講義全体平均）

3. 通信教育対象科目

1) 体育理論

レポートおよび試験問題の出題・採点を、加藤大仁君、山内賢君、須田芳正君で担当した。

2) 体育実技スクーリング

2017年8月7日から8月12日の連続6日間、6種目を日吉キャンパスにて実施した。

6種目のうち1種目は「スポーツクラス」という1単位の授業であり、5種目は「スポーツセミナー」という2単位の授業であった。スポーツクラスは実技と講義から構成されるのに対し、スポーツセミナーは講義と演習から構成される。これらの種目・担当者・定員・履修者数等を表Ⅲ-1-12に示す。

表Ⅲ-1-12. 2018年度通信教育部体育実技スクーリング開講種目および担当者一覧

	種 目 名	担当者	定 員	履修者数	充足率
スポーツクラス	ゴルフ	勝又 正浩	20	19	95%
スポーツセミナー	卓球	木林 弥生	25	25	100%
	太極拳	厚母 宗子	20	21	105%
	ピラティス（健康身体作り）	板垣 悦子	20	21	105%
	フィットネストレーニング	山内 賢	25	25	100%
	水泳	鳥海 崇	30	24	80%
	テニス	村松 憲	20	19	95%
合 計			160	154	96%

4. 塾内における授業担当

日吉、三田及び芝共立キャンパスにおいて開講される体育研究所設置の体育科目及び通信教育部のテキスト科目・スクーリング科目

に加え、各学部の設置科目の開講についても協力している。平成29年度の他学部設置科目及び担当者を表Ⅲ-1-13に示す。

表Ⅲ-1-13. 塾内における授業担当及び協力

授 業 科 目 名	担 当 者	開講学部など	曜日時限など
薬学生のための体験学習プログラムF	板垣 悦子	薬学部	春秋学期水曜 6時限
体育1	野口 和行	総合政策学部 環境情報学部	春学期月曜 3時限
体育2～5（野外スポーツ）	野口 和行	総合政策学部 環境情報学部	春学期月曜 2時限 秋学期月曜 2, 3時限
人体の科学	佐々木玲子 村山 光義	理工学部	秋学期水曜 5時限

Ⅲ-2 スポーツイベントの開催

1. 塾長杯・塾内競技大会

1) 塾内水泳記録会

1. 開催日：2018年7月7日（土）
2. 会場：協生館地下1階プール
3. 開催時間：9:30～12:45
4. 参加者数：約20名
（登録選手数7名（当日1名欠席）、教員3名、運営スタッフ10名）
5. レース数：5レース
6. 協力：体育会水泳部
7. コメント：

今年度1回目の塾内競技大会として、初めて水泳記録会を実施した。運営スタッフとして、体育会水泳部の方々が企画から運営まで積極的に行っていただき、無事に大会を終えることができた。参加した選手は7名と、小規模な記録会となったが、それぞれが自己記録更新に向けて全力で泳ぐ姿がとても印象的であった。また、水泳部員が急遽レースに参加するなど、大いに盛り上がった記録会となった。



2) 塾長杯バレーボール大会

※雨天により中止となったが、記録として以下に記載する。

1. 開催予定日：2018年10月27日（土）
2. 会場：第3校舎下バレーボールコート

3. 開催時間：9:00～17:00
4. 応募チーム数：3チーム（エンジョイリーグのみ募集）
5. 参加チーム説明会
2018年10月18日（木）16:30～17:00
スポーツ棟（体育研究所）2F会議室

3) 新春塾内卓球大会

1. 開催日：2019年1月19日（土）
2. 会場：スポーツ棟（体育研究所）地下1階卓球場
3. 開催時間：10:00～15:00
4. 参加者数：25名
（塾生、教職員及び卒業生約25名）
（シングルス16名、ダブルス8ペア）
5. ゲーム形式
予選：11点先取2セットマッチ
決勝：11点先取3セットマッチ
6. 表彰チーム
ダブルス（中・上級の部）
優勝：野原将人（理工3年）
雨宮優理（薬3年）
準優勝：宮脇利行（非常勤講師）
木林弥生（非常勤講師）
ダブルス（温泉の部）
優勝：松本里穂（理工M1年）
佐々木玲子（体育研究所）
準優勝：野口和行（体育研究所）
稲見崇孝（体育研究所）
シングルス（上級の部）
優勝：土屋慧典（商3年）
準優勝：雨宮優理（薬3年）
シングルス（中級の部）
優勝：原田悠樹（文2年）
準優勝：河野礼子（文学部教員）
シングルス（温泉の部）
優勝：池田圭吾（経済2年）
準優勝：猪川晃司（塾長室）
7. コメント
今年度の大会は、例年に比べると塾

生の参加が少なかったが、学部の教員や職員、また塾員同士で声を掛け合い参加いただいた方もいたことから、幅広い世代で交流を深めることができた。スポーツを通じてつながる人間関係を大切にしながら、今後も卓球大会を開催していきたい。



2. 公開講座

1) ピラティス

1. 日 程：
2018年12月3日（月）・10日（月）・17日（月）の全3回
2. 会 場：協生館エクササイズスタジオ
3. 開催時間：18:30～19:30
4. 講 師：
板垣悦子（体育研究所准教授）
5. 参加者数：
5名
6. 受講料：2,000円
7. コメント：
今年度はピラティスの講座を全3回のプログラムとして開講した。秋学期のみの開講となり、また募集期間が例年より短くなってしまったため、今後はより多くの方にスポーツの機会を提供できるように、種目や開催時期等、再検討し実施していきたい。

3. 所内施設の開放

1) 協生館トレーニングルーム開放

1. 期 間：
【春学期】
2018年5月21日（月）～7月20日（金）
【秋学期】
2018年10月1日（月）～2019年1月21日（月）
2. 曜日時間：
月・水・金（16:30～18:00）
3. 担当者
【春学期】
月：足立若菜（法学部4年）
水：福士徳文・稲見崇孝（助教）
金：小畑彩絵（理工学研究科2年）
【秋学期】
月・金：小畑彩絵（理工学研究科2年）
水：福士徳文・稲見崇孝（助教）
4. 利用者数：393名
（春学期175名、秋学期218名）
5. コメント：
今年度も、昨年同様の日程で開放を行った結果、全体の利用者数に大きな変化はなく、一定数の塾生が施設を利用していたと考えられる。また、秋学期利用者のうち25%が留学生であった。トレーニングルーム内掲示物の英語化がまだ進められていないため、留学生への対応を随時進めていく。

2) 多目的コートの貸し出し

※記念館の建て替えに伴い、今年度は貸し出しを行わなかった。

Ⅲ－3 他機関との連携

1. 公開講座

I. 慶應義塾大学・読売新聞社 横浜市民講座「スポーツの見方・楽しみ方」

1. タイトル：「Think サッカー ～データからサッカーを考える～」
2. 日 程：2018年5月19日（土） 午前の部（実技）・午後の部（講演）
3. 会 場：日吉キャンパス 午前の部：陸上競技場 午後の部：独立館 DB202 番教室
4. 開催時間：午前の部 9:30～12:00、午後の部 13:00～15:00
5. 対 象 者：午前の部 小学生60名
午後の部 サッカーが好きな方・興味のある方300名
6. 講座内容：
【午前の部】「データから自身のサッカーと可能性を考える」
ブース1：身体組成の測定
ブース2：シュートスピードの測定
ブース3：サッカー教室&ゲーム中の移動軌跡の測定
【午後の部】「これからのサッカーを考える」
ワークショップ：「データからサッカーを考える」
トークショー：《講師》岩政 大樹 氏（東京ユナイテッド FC・元サッカー日本代表）
7. 受 講 料：無料

2. 一貫校連携

II. 幼稚舎館山遠泳合宿（水泳指導教員）

1. 日 程：2018年7月21日（土）～ 25日（水）
2. 会 場：千葉県館山市見物海岸
3. 対 象 者：6年生
4. 講 師：鳥海崇
5. 参加者数：39名

III. 幼稚舎体育特別授業

1. 日 程：2019年1月31日（木）
2. 会 場：慶應義塾幼稚舎グラウンド
3. 対 象 者：6年生
4. 講 師：須田芳正
5. 参加者数：150名

3. 体育会支援

石手 靖 体育会参与
吉田 泰将 剣道部師範、医学部剣道部師範代行
須田 芳正 体育会副理事
鳥海 崇 体育会副理事
坂井 利彰 体育会副理事、庭球部監督

IV. 業務活動記録

IV. 業務活動記録

2018年度総務分野関係報告

1 人事

- (1) 就任（昇格）
山内 賢君（教授）
奥山静代君（准教授）
坂井利彰君（准教授）
- (2) 就任（継続）
福士徳文君（助教（有期））
稲見崇孝君（助教（有期））

2 塾内役職

- (1) 大学寄宿舍舎監
野口和行君
- (2) 大学寄宿舍委員会委員
野口和行君
- (3) 大学教養研究センター運営委員
石手 靖君（所長）
- (4) 大学教養研究センター所員
石手 靖君・近藤明彦君・佐々木玲子君・
村山光義君・加藤大仁君・村松 憲君・
山内 賢君・吉田泰将君・野口和行君
- (5) 大学学生総合センター副部長（日吉支部）
村山光義君
- (6) 体育会副理事
須田芳正君
坂井利彰君
鳥海 崇君
- (7) 体育会参与
石手 靖君（所長）
- (8) 日吉行事企画委員会（HAPP）委員
石手 靖君
- (9) 立科山荘運営委員会委員
野口和行君
- (10) 日吉キャンパス公開講座運営委員会委員
佐々木玲子君（～9月30日）
野口和行君（10月1日～）
- (11) 日吉記念館運営連絡協議会委員
石手 靖君・加藤幸司君・鳥海 崇君
- (12) 慶應義塾研究倫理委員会研究倫理審査委員会
委員長
佐々木玲子君
- (13) 大学保健管理センター運営委員
石手 靖君（所長）
- (14) 大学スポーツ医学研究センター運営委員
石手 靖君（所長）

- (15) 日吉キャンパス衛生委員
山内 賢君
- (16) Hiyoshi Research Portfolio（HRP）運営委員
石手 靖君（所長）
- (17) 通信教育部学務委員
村松 憲君

3 研究所内役職の主なもの

- (1) 所 長
石手 靖君
- (2) 人事委員会委員
石手 靖君・植田史生君・近藤明彦君・
佐々木玲子君・村山光義君・加藤大仁君・
村松 憲君
- (3) 学習指導主任
村松 憲君
- (4) 学習指導副主任
坂井利彰君
- (5) 総務委員会委員長
板垣悦子君
- (6) 教育委員会委員長
村松 憲君
- (7) 研究委員会委員長
須田芳正君
- (8) スポーツ振興委員会委員長
山内 賢君
- (9) 将来構想委員会委員長
坂井利彰君
- (10) 活動報告書編集委員会委員長
板垣悦子君

4 その他

- (1) 日本体育学会 第70回大会組織委員会
組織委員長 石手 靖君
副委員長 佐々木玲子君
事務局長 村山光義君
副事務局長 野口和行君
総務 加藤大仁君・山内 賢君・加藤幸司君・
福士徳文君・東原綾子君
企画 板垣悦子君・坂井利彰君・松村 憲君・
鳥海 崇君・稲見崇孝君
渉外 須田芳正君・永田直也君
経理 吉田泰将君・奥山静代君

（主事 千葉 徹）

Appendix
KEIO 2020 project 2018年度活動報告

Appendix

『KEIO 2020 project 2018年度活動報告』

■2018年度の活動の総括

2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプで日吉キャンパスを訪れる英国チームをサポートする学生ボランティア組織として2016年度からスタートさせた本プロジェクトであるが、今年度は大きな飛躍を遂げる一年となった。その理由は、未来先導基金および浅野均一記念研究奨励金の採択を受けたことにより、学生主体の活動を幅広く支えることが可能になったこと、体育研究所の公な教育研究活動として各種活動を展開することができたことが挙げられる。体育研究所では、活動代表者として石手靖君、人文社会

領域アンケート担当として村山光義君、地域スポーツ振興教育担当として村松憲君、オリンピック教育（国内）担当として須田芳正君・坂井利彰君、ボランティア活動教育担当として永田直也君・福士徳文、国際交流教育・他教育機関ジョイント担当・プロジェクトコーディネーターとして稲見崇孝君、がチームとなって学生の主体的な活動をサポートした。それぞれの助成に対する活動報告は以下を参照されたい。また、今年度のスタートには、新入生向けの説明会を行い、組織の拡大を図った結果、年度末には KEIO 2020 project の公式 LINE 登録者数が約700人と、非常に大きな組織へと成長した（図1）。組織を拡大するにあたっては、今までの体制を見直し、新たに図2のような組織体制を確立し、活動を行った。

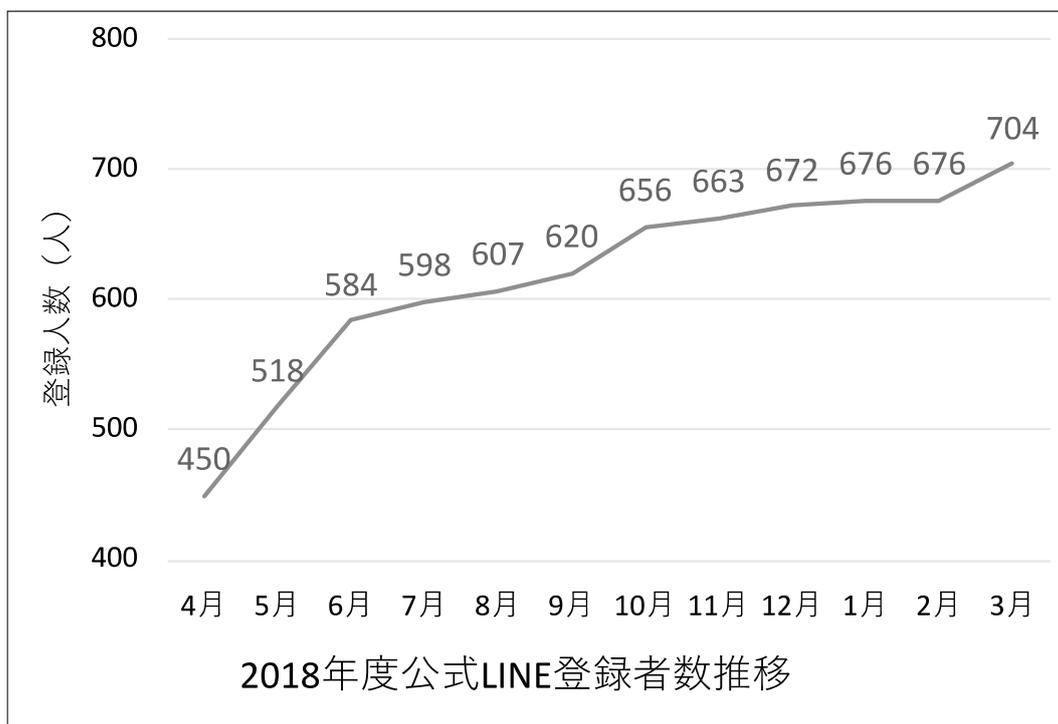


図1

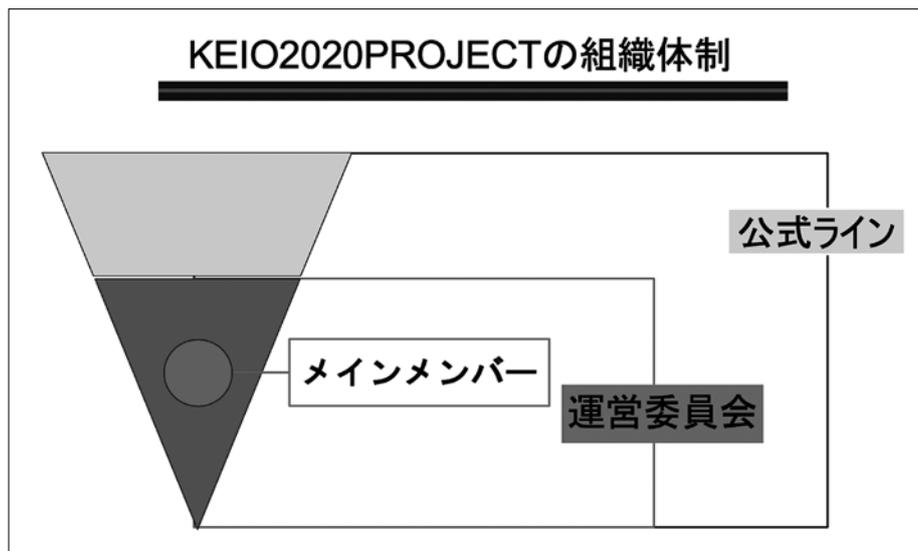


図2

メインメンバーは、昨年の夏以降にプロジェクトに参加した2年生、つまり2020年を4年生で迎えるメンバーを主として構成された。主に、プロジェクト全体の動きを把握し、新しく立案された企画の取りまとめや、教員との連絡・連携を担当した。2019年度にはメインメンバーのほとんどが三田キャンパスに拠点を移すため、年度途中から1年生もメインメンバーに加え、2年生から1年生へ役割の引き継ぎも随時行われた。運営委員会は、メインメンバーに加えて2018年春以降から活動に参加した1年生の中でも自らがギアとなって運営を希望する学生で構成された。運営委員会は、毎月1-2回の運営ミーティングを定例で行い、新企画の立案や進行中の企画についての話し合い、情報共有などを行った。また、運営委員会が企画したイベント当日には、事前に“運営委員会ではないもののKEIO 2020 projectに興味を持っている学生たち”で構成される公式LINEグループに情報を流し、ボランティアとしてイベントに参加してくれる学生を募ることでイベントの運営を行った。これは、昨年までと同様に、運営委員と“2020 projectに興味を持っていてくれる学生”との間に大きな隔たりを作らず、

ボランティアへの参加頻度や貢献度合いに自由度を設けるためである。このような組織体制のもと、昨年以上に多くの企画を実践してすることができた。活動の詳細は、以下に「活動の足跡」として記載する。しかしながら、ボランティアという性質上、運営委員会メンバー内での貢献度や負担にバラつきがあるのも事実である。2019年度の活動ではこうした温度差をなくすためにも、2020年の事前キャンプと同じ夏季シーズンに来日する競技団体との交流や、塾長室や国際連携推進室、日吉運営サービス、体育会をはじめとした関連部署との塾内連携をより強固にするなど、2020年に向けてリアリティーのある活動を展開したい。とはいえ、体育研究所としてはKEIO 2020 projectの活動を推進するにあたり、本プロジェクトに関わる学生自らが“知り”、“考え”、“養う”過程で蓄積・形成される【人間の生きる力】を育成する、というスタンスに変わりはない。そのために、学生主体の活動を支えながら成長を促す教育的側面と、本プロジェクトを通して学生がどのように成長・変容したかなどを、各種研究手法を用い分析・検証する研究的側面を合わせ、教育研究機関としての使命を全うできるよう引き続き所員

で力を合わせ邁進していきたい。また各種企画・ボランティアに関わった学生には、体育研究所から修了証を発行し、在学中の行動の証を記した。2019年度には本プロジェクトを通じた活動に積極的に参加している学生を表彰する制度を設けるなど、蓄積されたものへの評価と今後の活動への更なる貢献を期待する取り組みにも着手していきたい。

◆参照

□未来先導基金：

(http://www.dff.keio.ac.jp/activity/programs/2018/02_detail.html)

□浅野均一記念研究奨励金：p33～36を参照

■2018年度 活動の足跡

1. イギリスオリンピック委員会 (British Olympic Association：以下、BOA) による日吉キャンパス視察 (5月14日) 【図3】

各競技団体の BOA 代表者が日吉キャンパスを視察のために訪れ、KEIO 2020 project のメンバーはキャンパスツアーのサポートを行った。ツアー中、各競技団体の代表者らから競技特性や英国文化についての話題提供もあった。BOA の方々との初の直接的な交流となり、今後の連携への期待が高まる機会となった。



図3

2. 読売新聞市民講座「Think サッカー ～データからサッカーを考える～」(5月19日) 【図4】

慶應義塾大学が読売新聞社と主催した市民公開講座の企画立案から運営までを KEIO 2020 project のメンバーが行った。地域の小

学生やその保護者、体育会学生、各企業の方々を project メンバーが一斉にとりまとめるという機会は初めてのメンバーが多く、大きなイベントを遂行する難しさや、事前準備の大切さを実感する貴重な経験となった。



図4

3. 英国パラリンピック委員会 (British Paralympic Association: 以下、BPA) との事前キャンプ覚書締結式 (5月24日) 【図5】

慶應義塾大学・横浜市・川崎市は、東京2020パラリンピックの際の事前キャンプについて、BPAと覚書を締結し、その締結式を

日吉キャンパス協生館イベントホールにて行った。KEIO 2020 projectのメンバーは、調印書の受け渡しなど、式のサポートを行った。また、終了後のレセプションでは、締結式に参加していた英国のパラ柔道選手団と直接意見交換をする機会にも恵まれた。



図5

4. British Columbia 大学野球部交流プログラム（8月17日）【図6】

カナダの British Columbia 大学と体育会野球部の親善試合が行われ、両校の国際交流を目的としたプログラムを KEIO 2020 project メンバーが企画・運営した。2020年までに行う各競技団体との地域交流イベント等を想定し

てプログラムを計画した。外国語でのコミュニケーション促進のため、両校の野球部員が混合チームを結成しクイズや伝言ゲームを行い、また日本文化に触れ楽しんでもらうために、日本舞踊の鑑賞、射的やけん玉、書道を体験した。



図6

5. KEIO 2020 project 夏合宿（8月28日～30日）【図7】

蔵王坊平アスリートヴィレッジにて、スポーツ施設見学、近代五種競技スタッフとの交流、プロジェクト内の交流の促進などを目的に夏合宿を行った。体育・スポーツ系の学部がない本塾の塾生にとっては、各種トレーニング施設や器具は見慣れないものばかりで

あった。近代五種スタッフとの交流は、競技についてはもちろん、選手を支える環境面などについても話を伺うことができ、英国チームをサポートする際のイメージを膨らませることができた。そして何より、KEIO 2020 project メンバー同士の交流を深めることができ、今後の活動を推進する良いきっかけとなった。



図7

6. 英国視察（9月5日～11日）【図8】

KEIO 2020 project メンバー13名と体育研究所の教職員3名で、英国を視察した。視察では、2020年に英国オリンピック・パラリンピック選手団をサポートするにあたり、1) 英国の文化について、2) スポーツ・バリアフリーについて、3) 2012年ロンドンオリンピックを成功に導いたイギリスのボランティアについて、4) BOA・BPAについて、5) 大会後のレガシーについて、学び・理解を深めることを目的とした。英国滞在中は、する・観る・支える、の視点にも着目し、Queen Elizabeth Park（オリンピックパーク）視察やケンブリッジ大学訪問、サッカー観戦、ロンドン市内観光（バリアフリー環境調査）などを行った。行く先々で、日本にはない英国文化を発見・体感し、また様々な人と接する中でnationalityを感じ、そのギャップを含め現地を訪れてこそその学びを得ることができた。

7. 英国パラ水泳選手と横浜市小学生との交流サポート（9月21日）【図9】

2018ジャパンパラ水泳大会に出場するために来日していた英国パラ水泳選手と横浜市立大曾根小学校の児童との交流会が行われた。KEIO 2020 project のメンバーは、交流会全体の進行のサポートを行い、会場整備や小学生の誘導、質問の際の通訳などを行った。



图8



图9

8. 港北区・都筑区区民祭りでの英国事前
キャンプPRブースの出展（10月20日・11
月3日）

10月20日は新横浜少年野球場で開催された
2018ふるさと港北区民祭りに（図10）、11月
3日にはセンター北駅前で開催された第24回
都筑区民祭り（図11）に英国事前キャンプを
PRするブースをそれぞれ出展した。事前キャ

ンプをPRするだけでなく、英国について知っ
てもらうために、紅茶の試飲やイギリスやオ
リンピックに関するクイズを実施した。また、
ロンドン橋をモチーフに作成したリンボーダ
ンス体験などを行った。近隣地域交流との起
点づくりはもちろんのこと、認知度調査も実
施できた。



図10



図11

9. Think Athlete Legacy (10月24日)

【図12】

元オリンピックの室伏由佳さんを講師に招き、KEIO 2020 projectのメンバーとオリンピックボランティアに関して意見交換を行った。実際にオリンピックに出場した室伏さんの実体験を聞き、オリンピックボランティアとしての自分たちの役割がいかに重要であるかを再認識する機会となった。

10. 横浜マラソン・東京マラソンボランティア (10月28日・3月3日)

実際のメガスポーツボランティアを体験すべく、本年度も二つのマラソンボランティアに参加した。横浜マラソン(図13)では手荷物の返却や総合案内、東京マラソン(図14)では案内版の掲示などを行った。



図12



図13



図14

11. ひよしマップ説明会（12月21日）

「ひよしマップ」作成のための説明会を日吉商店街の方々向けに開催した。ひよしマップは、KEIO 2020 project が作成する日吉商店街のマップのことで、英国チームの選手やその家族はもちろん、さらには日吉を訪れる日本人や海外から来た方々が行きたい店の場

所やその他の情報を簡単に見つけられることを目的に作成している。説明会には日吉商店街各通りの組合の方々、銀行や郵便局、飲食店の方々に参加され【図 15】、日吉に多くの外国人が訪れる可能性があることと、これに合わせて作成する「ひよしマップ」への理解のために非常に重要な説明会となった。



図15

12. 学食 Fish'n'Chips 企画【図16】

英国チームの事前キャンプ PR や英国選手を応援し日吉キャンパスを盛り上げることを目的に、日吉食堂部に協力いただきイギリスの伝統的な食べ物である“Fish'n'Chips”を販売した。1月15日（火）から1月30日（水）

の約2週間、1日60食限定で販売したが、全て完売となるほど大盛況であった。英国を視察したメンバーが英国を視察していないメンバーら情報を共有しながら共に考え、機運向上に努めた。

KEIO
2020
PROJECT

2020年夏、大会の事前キャンプ地として英国代表チームが日吉キャンパスに滞在します。その期間中、慶應義塾体育研究所と協力し、選手や関係スタッフをサポートするのがKEIO2020projectです。英国代表チームを応援・サポートする学生主体の組織として、現在も多くの企画が進行しています。

1/15~1/30
FISH'N'CHIPS販売

<公式SNS>
・ Facebook : KEIO2020project
・ Twitter : @KEIO2020project
・ 公式LINE

Delicious!!

イギリス名物!

¥190 (税込)

FISH'N'CHIPS企画とは?
2020年夏、英国代表選手は大会前の事前キャンプのため日吉キャンパスに滞在します。英国代表チームの応援と日吉キャンパスを盛り上げるため、慶應義塾体育研究所と協力してサポート活動を行う学生主体の組織「KEIO 2020 project」が日吉食堂部にコラボして実現したのが Fish'n'Chips企画です。

図16

13. ユニバーサルイベント「シットティングバレー体験会（2月6日）【図17】

株式会社リクルートと横浜市立城郷小学校、弊所の共催でユニバーサルイベントを実施した。小学生たちが障害者スポーツおよび障害者の方々への理解とパラリンピックへの関心を高めること、また地域とのイベントを実施する際のノウハウを形成することを目的に企画した。KEIO 2020 project のメンバーは、イベント当日までに小学生たちとの練習会や打ち合わせを重ね、本番当日はリクルート社所属のシットティングバレーボール日本代表の田澤選手らとともに、シットティングバレーを通じたパラスポーツの理解とその多様性を考えるイベントを実現することができ

た。また、本イベントは東京2020参画プログラムの公認プログラムとして承認されている。

14. 横浜慶應チャレンジャー「レセプションパーティー」（2月24日）【図18】

事前キャンプの際のレセプションパーティーの開催を想定し、テニスの国際大会である横浜慶應チャレンジャーのレセプションパーティーを企画・運営する機会を得た。KEIO 2020 project のメンバーは会場の装飾や司会、書道体験や浴衣の着付けのブースなどを展開した。外国人選手に日本の文化を伝える難しさや会そのものを進行する際のマナー等についても体験することができた。



図17



図18

15. Think Universal ～バリアのない社会を考える～（3月12日）【図19】

井坂昌明先生（大阪行岡医療大学）、錦戸蒼馬先生（千里リハビリテーション病院）の2名を講師に招き、障害のある方へのふるまいや、車椅子を実際に使った乗り方やサポートの仕方を学んだ。日吉キャンパス内を車椅子で移動するワークショップでは、坂道の移動の大変さや段差が多いことに気づき、バリアフリー化への課題を発見することができた。

16. マナー講習会（3月19日）【図20】

今年度もマナーインストラクターである福田智子先生（中北薬品株式会社）を講師に招き、名刺交換やメール送信の方法など、主に渉外活動時を想定したマナーについて学んだ。このような講習会は、オリンピックボランティアにとどまらない、学生の成長を促す活動として非常に貴重な機会になっている。参加した KEIO 2020 project のメンバーは、講習会中に新たな知見を得ると同時に、考え・実践することにより、今後の活動につながる現代の実学となった。



図19



図20

■課題と展望

冒頭にも述べたように、課題も浮き彫りになりはじめている。塾生の興味・関心を得たことも手伝い、KEIO 2020 project の公式 LINE に登録する学生の数（量）は当初予定していた 300 名程を大幅に越えることができた【図 1】。2020 年に入学する塾生の参加を考慮しても、さらに大所帯になることが予想される。今後、“質”を問われることは言うまでもなく、充実した教育プログラムと塾生同士の結束力の向上が望まれる。現在は男性教員がサポートに当たることが多いが、女性教職員のサポートも時として必要になるだろう。

2019年度の活動は、未来先導基金の2年目の採択通知を受けており（採択名：KEIO スポーツレガシー —東京 2020 オリンピック・パラリンピック英国サポートを通じた“生きる力”を備えた人間育成プロジェクト【KEIO 2020 project】—、代表：石手靖君）、加えて体育研究所所内研究費の助成も決定していることから、これらを基に学生主体の活動を幅広くサポートしていく予定である。活動のコンセプトは今年度までと同様、【2020年に実際にボランティアを行うまでに、経験・実践・準備しておくべき活動・取り組みを学生主体で考え、学び、その過程で培った力をもって BOA・BPA を最大限にサポートすること】に

ある。さらに2019年度は、現時点で日吉キャンパスにて事前キャンプを行う可能性のある14種目分の「スポーツユニット」を編成する予定である。スポーツユニットは言うなれば KEIO 2020 project 内に各競技種目を担当するグループであり、各競技のサポートを専門的に行うため、勉強会や必要なボランティア像を見出していくことはもちろん、体育会各部や塾長室、英国選手団の窓口になれる存在を目指した活動を計画している。活動の詳細については、次年度の活動報告書にて報告するが、2019年度の活動も2020年を迎えるにあたって貴重な時間となるように、各活動のプロセスを大切にしながらサポートを続けていきたい。

最後に、今年度の活動も多く慶應義塾の教職員と関係企業、地方自治体、団体の方々に計り知れない強力・サポートをいただいた。この場を借りて、御礼申し上げますとともに、今後の活動にも引き続き、ご理解ご協力いただければ幸いです。

【文責：福士徳文】

2018年度活動報告書

2019年7月1日発行

[非売品]

編 集：活動報告書編集委員会

板垣 悦子（委員長）

奥山 静代 永田 直也

福士 徳文 東原 綾子

発 行：慶應義塾大学体育研究所

〒223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1

制 作：(有)梅沢印刷所

〒108-8345 港区三田2-15-45